

# 新武道館整備基本計画策定業務

## 報 告 書

令和6年3月

浜松市 スポーツ振興課



# 新武道館整備基本計画

## — 目 次 —

	Page
第1章 業務概要.....	1
1.1 業務の目的 .....	1
1.2 概要 .....	1
1.3 業務項目 .....	1
1.4 業務位置図 .....	2
第2章 他都市事例の調査.....	3
2.1 他都市事例の抽出 .....	3
2.2 他都市事例の整理 .....	3
第3章 既存施設の利用状況と施設規模の検討.....	7
3.1 既存施設の利用状況 .....	7
3.2 浜松アリーナの利用状況（興行系催事） .....	16
3.3 関連競技団体の意見 .....	17
3.4 新武道館の施設機能・規模 .....	22
第4章 モデルプランの検討と概算工事費の算出.....	27
4.1 モデルプランの検討 .....	27
4.2 概算工事費の算出 .....	32
第5章 建設候補地の検討.....	35
5.1 建設候補地及び敷地規模の条件 .....	35
5.2 建設候補地の検討 .....	38
第6章 整備手法及び整備スケジュールの設定.....	43
6.1 民間活力の活用を含む事業スキームの検討 .....	43
6.2 既施設の利用状況を考慮した整備スケジュール .....	44
第7章 基本計画書の作成.....	45



## 第1章 業務概要

### 1.1 業務の目的

本業務は、竣工から45年が経過している浜松市武道館の老朽化に伴い、新武道館を建設するにあたり、候補地の選定及び施設機能・規模、管理方法等を検討することを目的とする。

### 1.2 概要

- (1) 委託名 : 新武道館整備基本計画策定業務
- (2) 委託箇所 : 浜松市内
- (3) 委託期間 : 自 令和5年7月19日～至 令和6年3月29日

### 1.3 業務項目

- (1) 他都市事例の調査----- 一式
- (2) 既存施設の利用状況把握と施設規模の検討----- 一式
- (3) モデルプランの検討と概算工事費の算出----- 一式
- (4) 建設候補地の検討----- 一式
- (5) 整備手法及び整備スケジュールの設定----- 一式
- (6) 基本計画書の作成----- 一式

## 1.4 業務位置図

以下に業務の検討候補地を示す。

No	1	2	3
候補地	西区雄踏町宇布見 (雄踏総合公園敷地内)	西区篠原町 (浜松市総合水泳場「TobiO」南北)	南区増楽町 (可美公園敷地内)
区域区分	都市公園区域	都市公園区域	都市公園区域
位置図			
土地面積	約 180,000 m <sup>2</sup> の一部	約 88,000 m <sup>2</sup> の一部	約 140,000 m <sup>2</sup> の一部
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR 舞阪駅から車で約 10 分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR 浜松駅から車で約 20 分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR 浜松駅から車で約 15 分</li> <li>・JR 高塚駅から車で約 5 分 (徒歩 20 分)</li> <li>・JR 浜松駅からバスで約 25 分</li> </ul>
近隣の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雄踏総合公園内</li> <li>・雄踏総合体育館西側</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TobiO 北側</li> <li>・都市公園区域予定地内</li> <li>・県営野球場建設予定地の隣接地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南側工場エリア</li> </ul>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園内公共スペースの再整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園計画敷地内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園内公共スペースの再整備</li> </ul>
主な懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築の可能性について調査・調整が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築の可能性について調査・調整が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築の可能性について調査・調整が必要</li> </ul>

図 1-1 業務の検討候補地

## 第2章 他都市事例の調査

モデルプランの参考となり得る他都市の類似施設の事例を整理する。

### 2.1 他都市事例の抽出

モデルプランの参考となり得る他都市の類似施設として、以下の政令市における独立した武道館 5 施設、県立の武道館 3 施設を抽出する。

また、参考として市内の体育館 4 施設も事例として整理する。

表 2-1 他都市事例の抽出一覧

	類似施設名	所在地
政令市における 独立した武道館	仙台市武道館	宮城県仙台市
	大宮武道館	埼玉県さいたま市
	千葉市武道館	千葉県千葉市
	京都市武道センター	京都府京都市
	若松武道場	福岡県北九州市
県立の武道館	静岡県立武道館	静岡県藤枝市
	福岡武道館	福岡県福岡市
	ひなた武道館	宮崎県宮崎市
市内の体育館 (参考)	浜松アリーナ	静岡県浜松市 (中央区)
	浜北総合体育館 (サーラグリーンアリーナ)	〃 (浜名区)
	引佐総合体育館	〃 (浜名区)
	雄踏総合体育館	〃 (中央区)

### 2.2 他都市事例の整理

抽出した政令市における独立した武道館 5 施設、県立の武道館 3 施設及び市内の体育館 4 施設を整理する。次ページに事例の施設概要を示す。




表 2-2 他都市事例の施設概要 (1)

分類	類似施設名	施設の外観	施設概要	整備年次	構造・階数	延べ床面積 ／敷地面積	その他スポーツ競技 利用※			備考
							試合場面積	観覧席	その他	
政令市における独立した武道館	仙台市武道館 (仙台市)		当館は、独立した武道競技スペースを有しつつ、仙台市青葉体育館と一体の建物として整備されている。市民のスポーツ振興を主目的に設置されている当館は、付帯施設や観客席が小規模である。	開設 1998.6	RC 造、 一部 S 造 地上 4 階 地下 1 階	6,405 m <sup>2</sup> ／8,140 m <sup>2</sup>	柔道場 2 面 ：30.5×16m (256 畳) 剣道場 2 面 ：30.5×16m	弓道場 空手 少林寺拳法 薙刀	柔道場 156 席 剣道場 156 席	・維持管理： 指定管理者 ・駐車場 140 台
	大宮武道館 (さいたま市)		当館は、武道その他のスポーツ及びレクリエーションの振興を図るための教育施設として 1990 年に整備されて以降、2023 年 4 月には公共施設マネジメント計画に基づき、中規模修繕工事（外壁改修、屋根防水改修、施設の内部改修等）を終え、営業を再開している。	竣工 1990.4	RC 造、 一部 S 造 地上 2 階 地下 1 階	6,462 m <sup>2</sup> ／不詳	主道場 ：34×33m 剣道場 2 面 ：30×18m 柔道場 2 面 ：30×18m	主道場： バドミントン、バレー、 卓球対応可	主道場 924 席 ※固定 498 席	・維持管理： 指定管理者 ・駐車場 65 台
	千葉市武道館 (千葉市)		当館は、老朽化した「千葉公園体育館」、「千葉市武道館」及び「千葉中央コミュニティセンター体育施設（プールを除く）」の機能を集約し、千葉公園内（競輪場跡地の一部）に千葉公園総合体育館（YohaS アリーナ）の一部に柔道及び剣道の武道場として整備された。	供用開始 2023.4	RC 造、 一部 S 造 地上 3 階	8,194 m <sup>2</sup> ／ 10,417 m <sup>2</sup>	武道場 1 柔道 2 面 ：25×12m 武道場 2 剣道 2 面 ：28.5×14.5m	—	観覧席無	・維持管理： 指定管理者 ・公園内駐車 場を共用 300 台
	京都市武道 センター (京都市)		当センターは、日本で最古の演武場である「旧武徳殿（1899 年に営造された日本最古の演武場、国重要文化財（建造物）に指定）をはじめ、「本館（主競技場・補助競技場）」「弓道場」「相撲場」を備える総合武道施設である。1980 年から 1987 年 3 月まで約 7 年の歳月を要し、旧武徳殿の修復保存を中心とした増設により現武道センターが完成した。以後、国際競技大会が開催されるなど、京都市を代表する武道施設として広く利用されている。	完成 1987.3	SRC 造（本 館）地上 2 階 ※武徳殿は 木造平屋	4,032 旧武徳殿 1,051 m <sup>2</sup> ／不詳	本館主競技 場 1,344 m <sup>2</sup> 補助競技 場 310 m <sup>2</sup> (180 畳) 旧武徳殿 354 m <sup>2</sup> (約 200 畳)	本館は卓球、 テニス、バト ミントンにも 利用	本館 880 席 旧武徳殿 1,200 席	・維持管理： 指定管理者 ・駐車場 96 台
	若松武道場 (北九州市)		当武道場は、柔剣道場（柔道場 2 面、剣道場 2 面）と弓道場（近的 6 人立）を主な施設として、この他に会議室、コインロッカー（有料）、多目的トイレ等を備え、駐車場は 60 台分を確保している。	開館 1979 年 移転予定有	SRC 造地上 2 階	不詳 ／8,400 m <sup>2</sup>	柔・剣道場 ：1,732 m <sup>2</sup> 柔道、剣道 各 2 面	弓道場	300 席	・維持管理： 指定管理者 ・駐車場 60 台

※「その他スポーツ競技利用」は、武道場を利用する競技かつ本調査の対象と想定していない弓道場や相撲場を除き計上

出典：各施設のホームページに基づき編集





表 2-3 他都市事例の施設概要 (2)

分類	類似施設名	施設の外観	施設概要	整備年次	構造・階数	延べ床面積 ／敷地面積	その他スポーツ競技 利用※			備考
							試合場面数	観覧席	その他スポーツ競技 利用※	
県立の武道館	静岡県立 武道館 (静岡県 藤枝市)		当館は、2003年に開催された第58回国民体育大会「NEW!!わかふじ国体」の剣道会場として竣工した。県内における武道の普及・振興を図り、県民のスポーツ・レクリエーションの発展と健康で文化的な生活の向上に寄与することを目的とし、現在は全国的・全県的な各種武道競技大会の開催や武道団体・学校等のアマチュア団体が武道修練を行う施設として利用されている。 武道以外にもバレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球等のスポーツ競技にも対応できる仕様となっている。	竣工 2002.5	RC造 地上3階 地下1階	2,914 m <sup>2</sup> ／19,971 m <sup>2</sup>	大道場 ：50×40m 第一・二道場 剣道、柔道 各2面	大道場はV リーグ公式 試合対応	大道場 2,040 第一・二道場 各200席	・維持管理： 指定管理 者 ・駐車場 93 台
	福岡武道館 (福岡県 福岡市)		当館は、柔道場や剣道場など警察術科訓練の推進向上に必要な設備を備えるとともに、多様なスポーツに活用できるサブアリーナを新たに整備する。 外観は博多織を取入れたデザイン、環境にやさしい ZEB化（省エネルギー化 40%以上）等により、福岡の新たなランドマークとして県民に末永く愛される施設を目指す。福岡市と連携を図り、隣接する市民体育館との相互利用や駐車場の共用など、一体的な運営により、これまで以上に利用価値の高い施設として、本県のスポーツ振興の拠点とする。	着工 2023.10 竣工予定 2025.11	SRC造 +RC（一部S） 地上4階 地下1階	13,608 m <sup>2</sup> ／6,420 m <sup>2</sup>	柔道、剣道 各4面	サブアリー ナ： バスケット1 面（地下1階）	1,022席 （柔道・剣 道）	・太陽光発電 設備設置、 省エネル ギー化 ・駐車場 42 台 ・工事費約 61 億円
	ひなた武道館 (宮崎県 宮崎市)		当館は、県民の武道の普及・振興のため、本県における武道の殿堂“ひむかの国の建武の郷（けんぶのさと）”として宮崎県総合運動公園内に建設、同公園はネーミングライツで公募、対象施設に武道館も含まれている。 主道場をメインに武道全般に対応できるように道場を配しており、各道場には、更衣室とシャワールームを備えています。板張りの床下には衝撃を和らげるためのスプリングを設備するなど競技に適した構造に配慮している。また、生涯スポーツ振興の観点から、バレーボール、卓球、バドミントン、スポーツ・レクリエーション等の多目的な利用も可能、一般利用者の健康増進やプロスポーツ選手の利用にも対応できるトレーニングルームも備えている。	開場 1998.11	RC造 地上2階	13,960 m <sup>2</sup> ／25,169 m <sup>2</sup>	主道場計6面 （柔道、剣 道、空手使用 可） 主道場の他 剣道場 2面 108席 柔道場 4面 150席	副道場 空手・ 合気道 薙刀 少林寺拳法 計2面	主道場 固定 1,534席 移動 500席 副道場 固定 108席	・維持管理： 指定管理 者 ・駐車場は運 動公園内 で共用

※「その他スポーツ競技利用」は、武道場を利用する競技かつ本調査の対象と想定していない弓道場や相撲場を除き計上

出典：各施設のホームページに基づき編集

表 2-4 他都市事例の施設概要 (3)

分類	類似施設名	施設の外観	施設概要	整備年次	構造・階数	延べ床面積 ／敷地面積	その他スポーツ競技 利用※			備考
							試合場面積	観客席	その他	
市内の 体育館	浜松アリーナ (中央区)		当施設は、各種スポーツ大会の会場や、市民の一般利用はもとより、国際的な競技大会や各種文化イベントにも利用可能な多目的ホールである。 また、市民の皆様が気軽に汗を流し、健康・体力づくりができるトレーニング室や卓球室を備え、幅広い活用が可能である。	開館 1990年	SRC造 地上2階	13,000 m <sup>2</sup> ／31,100 m <sup>2</sup>	主競技場面積：65×44m (2,860 m <sup>2</sup> ) 副競技場面積：40×34m (1,360 m <sup>2</sup> )		観客席：3,544席 (ロールバック 1,046席)	・維持管理：指定管理者 ・駐車場 650台
	サーラグリーンアリーナ (浜名区)		当施設は、新東名浜松・浜北 IC から車で15分の、なだらかな傾斜地に立地するサーラグリーンアリーナは、2階建体育館の半分を地下に埋め込むことで自然の景観を生かした総合体育館である。 メインアリーナの観客席は1,070席で、バスケットボールやバレーボール、バドミントン、テニス等の試合が開催される。また、Vリーグ女子バレーボールチーム、ブレス浜松のホームアリーナであり、スポーツの公式大会やイベント等も開催される。	開業 2002年	SRC造 地上1階 地下1階	8,100 m <sup>2</sup> ／163,800 m <sup>2</sup>	主競技場面積：53×38m (2,014 m <sup>2</sup> ) 副競技場面積：31×27m (837 m <sup>2</sup> )	主競技場はVリーグ公式試合対応	観客席：1,060席	・維持管理：指定管理者 ・駐車場 約300台、大型バス 25台
	引佐総合体育館 (浜名区)		当施設は、自然豊かな浜松市浜名区引佐町に位置し、1991年に開設された施設である。 体育館の他にも柔道場、剣道場、トレーニングルーム、テニスコートなどがあり、スポーツを楽しむ場として、健康づくりの場としてさまざまな人が利用できる。 また、観客席もあるため、多くの大会の会場としても利用されている。	開設 1991年	RC造 地上3階	4,700 m <sup>2</sup> ／14,500 m <sup>2</sup>	主競技場面積：50×35m (1,750 m <sup>2</sup> ) 副競技場面積：55×22m (1,210 m <sup>2</sup> )		観客席：570席	・維持管理：指定管理者 ・駐車場 100台
	雄踏総合体育館 (中央区)		当施設は、浜名湖のほとりに位置する豊かな自然に包まれた体育館であり、バスケットボールやバレーボール、バドミントンやフットサルなど多様なスポーツを楽しむことができる総合体育館である。	開設 2006年	SRC造 地上2階	3,900 m <sup>2</sup> ／9,900 m <sup>2</sup>	主競技場面積：33×47m (1,551 m <sup>2</sup> ) 副競技場面積：17×24m (408 m <sup>2</sup> )		観客席：464席	・維持管理：指定管理者 ・駐車場 112台

※「その他スポーツ競技利用」は、武道場を利用する競技かつ本調査の対象と想定していない弓道場や相撲場を除き計上

出典：各施設のホームページに基づき編集

### 第3章 既存施設の利用状況把握と施設規模の検討

#### 3.1 既存施設の利用状況

##### (1) 浜松市武道館の利用状況

浜松市武道館の年間利用者数は約4.5万人（2022年）であり、コロナ禍<sup>1</sup>以前は減少傾向であったが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行する直前の2022年には徐々に増加の傾向がみられる。

直近で行われた指定管理者<sup>2</sup>に対する中区指定管理者選定会議の評価をみると、「使用されていない時間帯が多い」という課題に対し、「武道の枠に拘らない利用の増加」、「市民の誰もがスポーツを楽しめるよう、インクルーシブ<sup>3</sup>の進行に寄与」、「空調設備がないことによる夏場の熱中症対策」等が要望・指摘されている。

表 3-1 浜松市武道館の年間利用者数の推移

(年・人)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
年間利用者数	59,478	58,736	54,356	47,918	31,055	41,023	45,005
2019年を1.00とした指数	1.24	1.23	1.13	1.00	0.65	0.86	0.94

出典：市スポーツ振興課

#### 【参考】浜松市武道館の指定管理者の事後評価／浜松市中区指定管理者選定会議

##### ■事業執行（管理運営）に対する全体的な評価

- ・ 効率的・効果的な施設運営への配慮が感じられた。
- ・ 豊敷きの施設の特徴を生かし、市民が気軽に参加できる自主事業を実施することで、地域住民がスポーツに接する機会を提供している。
- ・ コロナ禍において、利用者数が戻ってきており、利用料収入が平成30年度を上回っているのは素晴らしい。
- ・ スポーツチャンバラの体験者数が少ないのがもったいない。
- ・ 自主事業の展開がされていてよいと思うが、PR不足と思われる。

##### ■来年度の事業執行（管理運営）に対する要望、指導事項等

- ・ 施設の稼働率が低い＝**使用されていない時間帯が多い**、という課題に対し、武道の枠に拘らない新たな自主事業を検討し、利用者の更なる増を図られたい。
- ・ 地域との連携を更に深めるための取組をお願いしたい。
- ・ **市民の誰もがスポーツを楽しめるよう、インクルーシブスポーツの振興に寄与**していただきたい。
- ・ **空調のない施設**であるため、**夏季利用での熱中症対策**を十分に取っていただきたい。
- ・ メディア等にも声をかけて、スポーツチャンバラを宣伝してみてもどうか。
- ・ 地元自治会だけではなく、周辺にも活動範囲を広げるなど、さらなるPRに取り組んでいただきたい。

出典：浜松市中区指定管理者選定会議／まちづくり推進課資料

<sup>1</sup> 新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されたのは2020.1.15、2023.5.8に「5類感染症」に移行

<sup>2</sup> 2019.4.1～2024.3.31の指定管理者は、日本環境マネジメント株式会社

<sup>3</sup> 「包括的」や「すべてを含む」といった意味をあらわす言葉

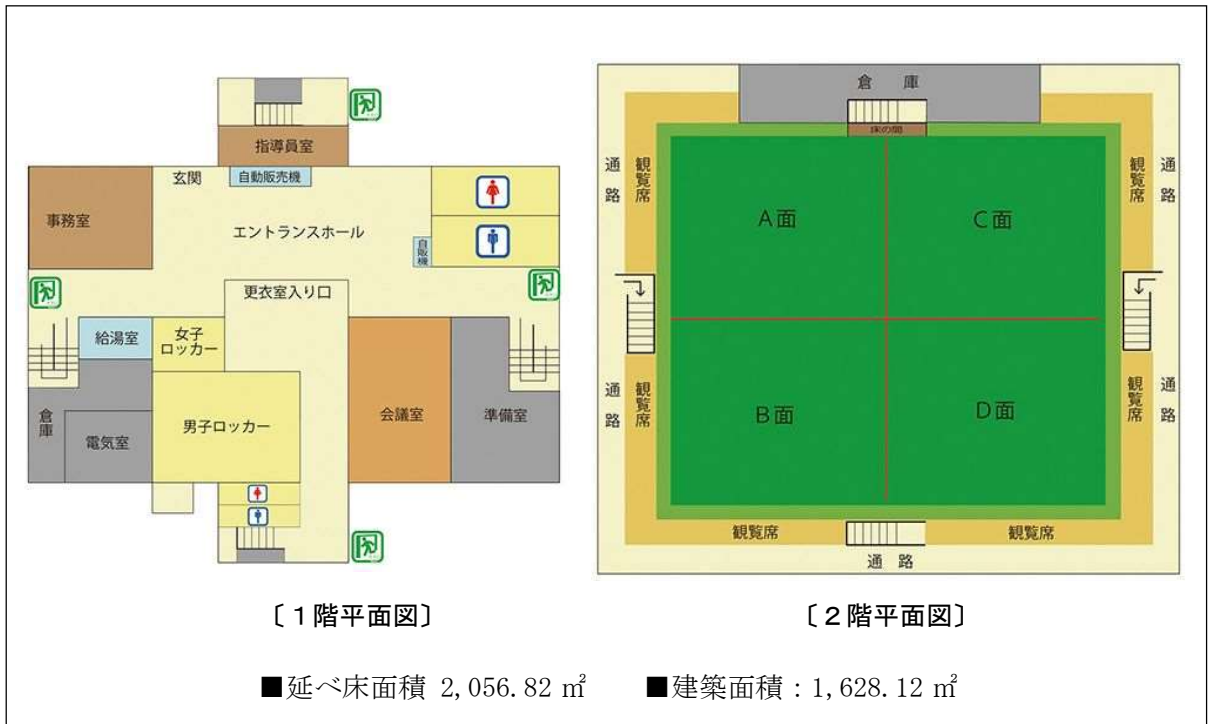


図 3-1 浜松市武道館の施設平面

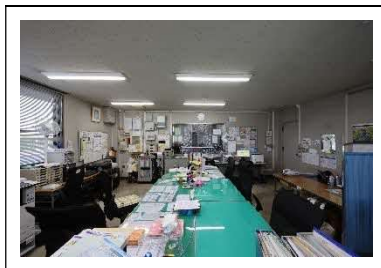
表 3-2 参考. 浜松市武道館の所要室の面積比率

階数	所用室	面積(m <sup>2</sup> )	割合(%)	
—	合計	686.3	100%	100%
1 F	小計	240.75	35.1%	—
	事務室	16.2	2.4%	2.4%
	指導員室	6.3	0.9%	0.9%
	準備室	17.8	2.6%	2.6%
	会議室	22.7	3.3%	3.3%
	女子ロッカー	4.9	0.7%	4.3%
	男子ロッカー	24.3	3.5%	3.6%
	女子トイレ	12.4	1.8%	1.8%
	男子トイレ	12.4	1.8%	0.6%
	給湯室	4.1	0.6%	1.3%
	電気室	8.9	1.3%	7.3%
	倉庫	10.9	1.6%	10.0%
	エントランスホール	68.6	10.0%	13.7%
	通路	10.55	1.5%	3.0%
	階段	20.7	3.0%	—
2 F	小計	445.55	64.9%	—
	A～D面	206.6	30.1%	30.1%
	観覧席	116.6	17.0%	17.0%
	倉庫	38.9	5.7%	※
	通路	83.45	12.2%	1階の所要室に追加

※所要室の割合は図上計測による



図 3-2 施設内観（1F）撮影位置・方向



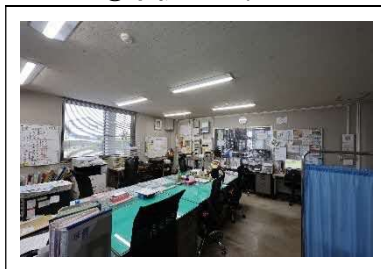
①事務室 東面



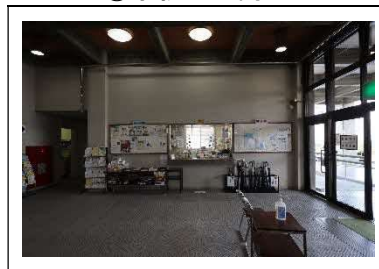
①事務室 南面



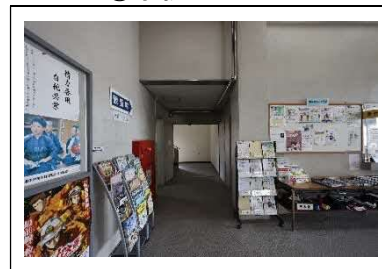
①事務室 西面



①事務室 北東面



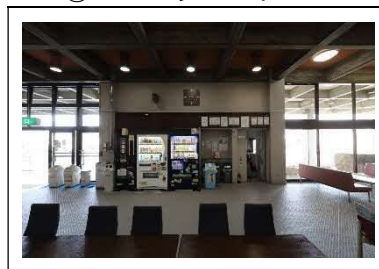
②エントランスホール



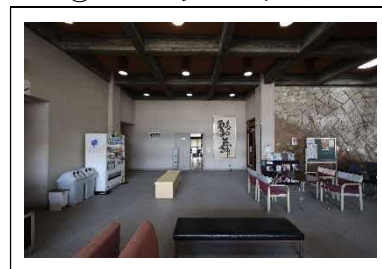
③エントランスホール



④エントランスホール



⑤エントランスホール



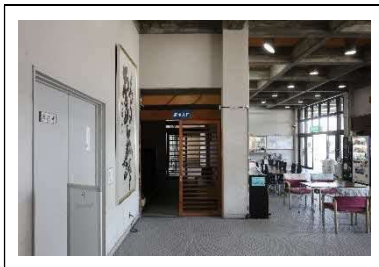
⑥エントランスホール



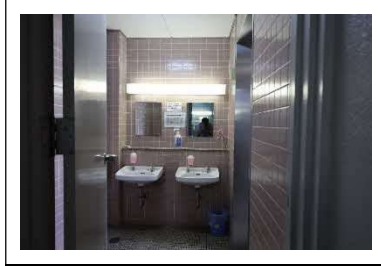
⑦エントランスホール



⑧エントランスホール



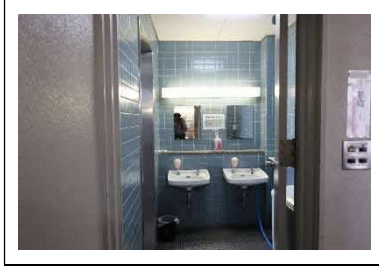
⑨エントランスホール



⑩エントラレストイレ 女子トイレ



⑩エントラレストイレ 女子トイレ



⑪エントラレストイレ 男子トイレ



⑪エントラレストイレ 男子トイレ



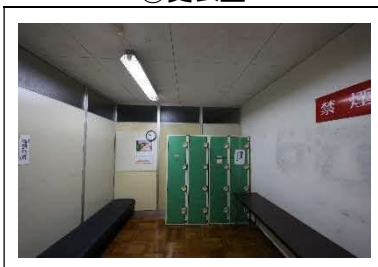
⑫更衣室



⑬更衣室



⑭女子更衣室 ロッカー・棚



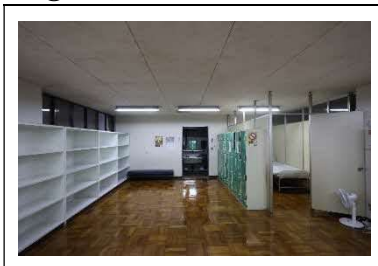
⑭女子更衣室 ロッカー・椅子



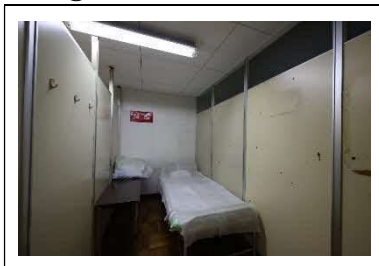
⑭女子更衣室 洗面・流し



⑭女子更衣室 シャワー



⑮男子更衣室 ロッカー・棚



⑮男子更衣室 休憩室 (ベッド)



⑮男子更衣室 ロッカー・棚



⑮男子更衣室 ロッカー・棚



⑮男子更衣室 洗面・流し



⑮男子更衣室 シャワー



⑯更衣室トイレ 更衣室女子トイレ



⑰更衣室トイレ 更衣室男子トイレ



⑱会議室 南側



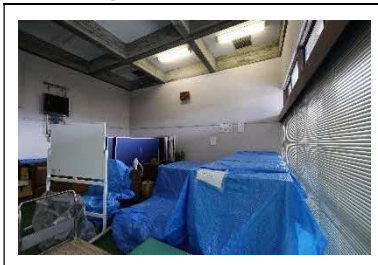
⑱会議室 北側



⑲準備室 入口より南側



⑲準備室 南側



⑲準備室 東側



⑲準備室 南側より北側



⑳湯沸室 洗面・流し



⑳湯沸室 シャワー



㉑倉庫



㉑倉庫



㉑倉庫 更衣室前室 (下駄箱)



㉑倉庫 更衣室前室 (下駄箱)

写真1 施設の内観 (1階)

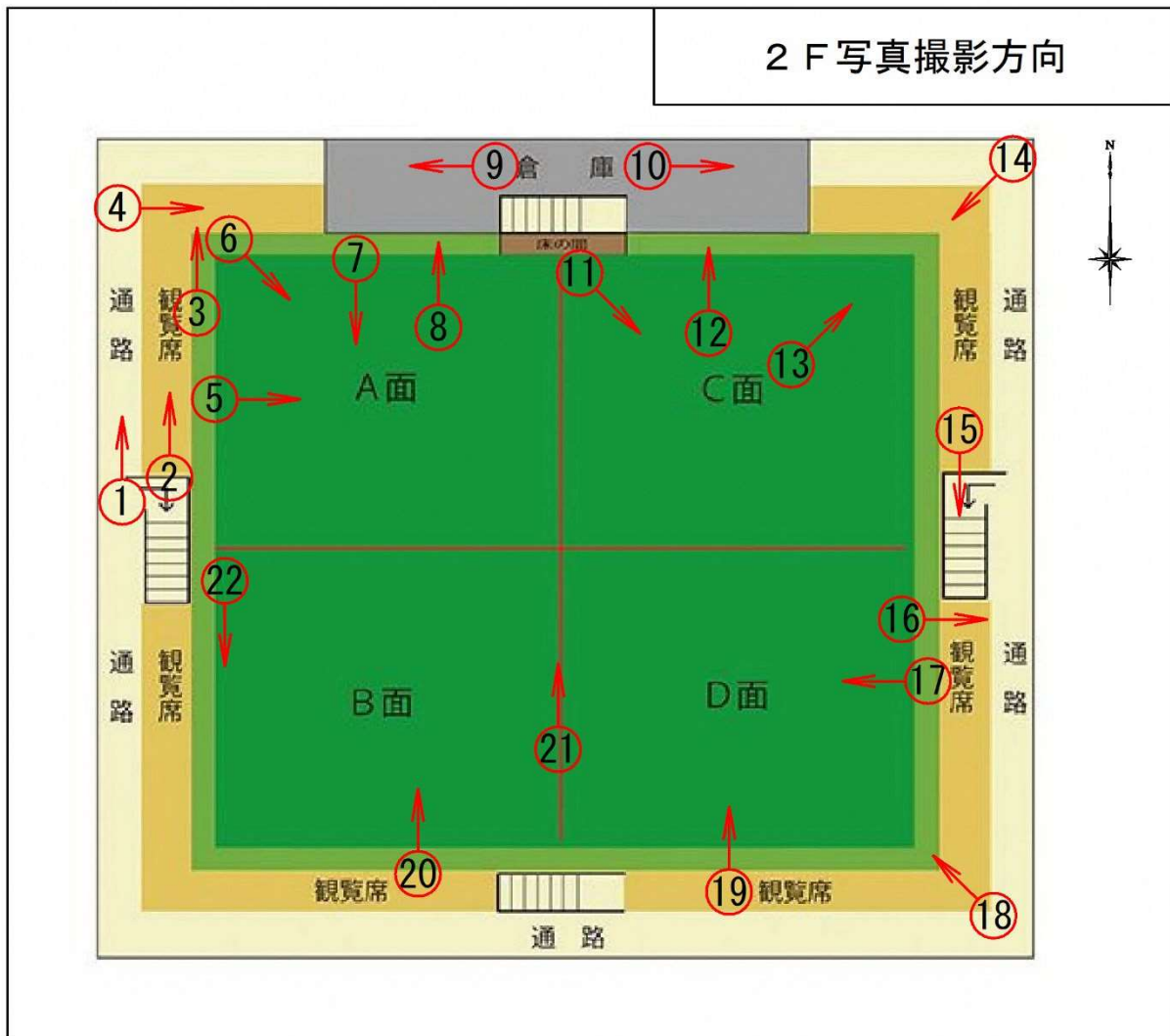
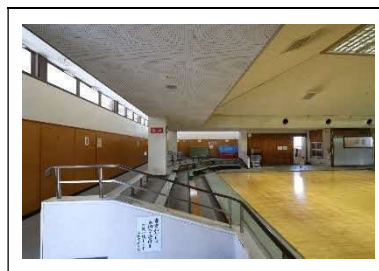


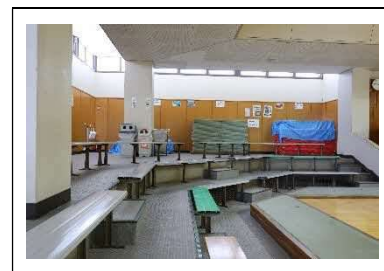
図 3-3 施設内観（2F）撮影位置・方向



①A面 通路



②A面 観客席



③A面 観客席



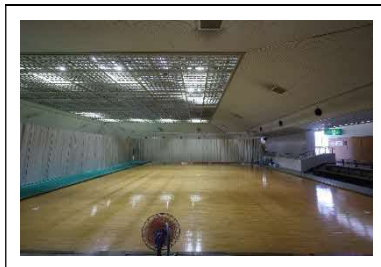
④A面 観客席



⑤A面 西側より



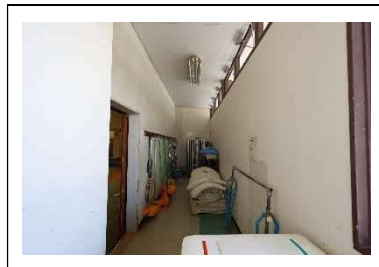
⑥A面 北西角より



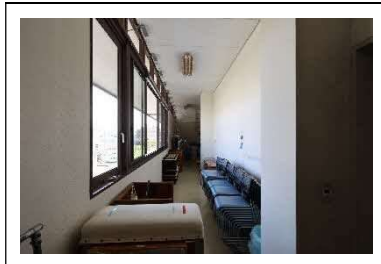
⑦A面 北側より



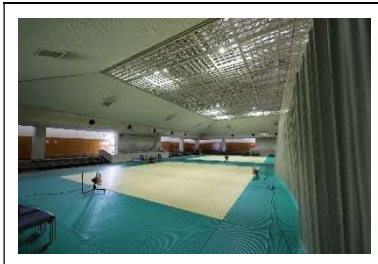
⑧A面 倉庫入口



⑨倉庫



⑩倉庫



⑪C面 (畳敷) 北西角より



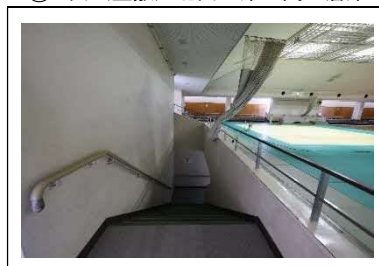
⑫C面 (畳敷) 北面 床の間・倉庫



⑬C面 (畳敷) 北東角



⑭C面 (畳敷) 北東角より



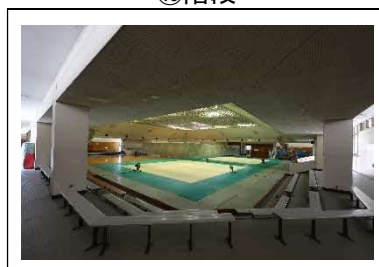
⑮階段



⑯排煙窓オペレーター



⑰D面 (畳敷) 東側より



⑱D面 (畳敷) 南東角より



⑲D面 (畳敷) 南面より



⑳B面南側より



㉑畳敷、板敷 境目



㉒畳敷

写真2 施設の内観 (2階)

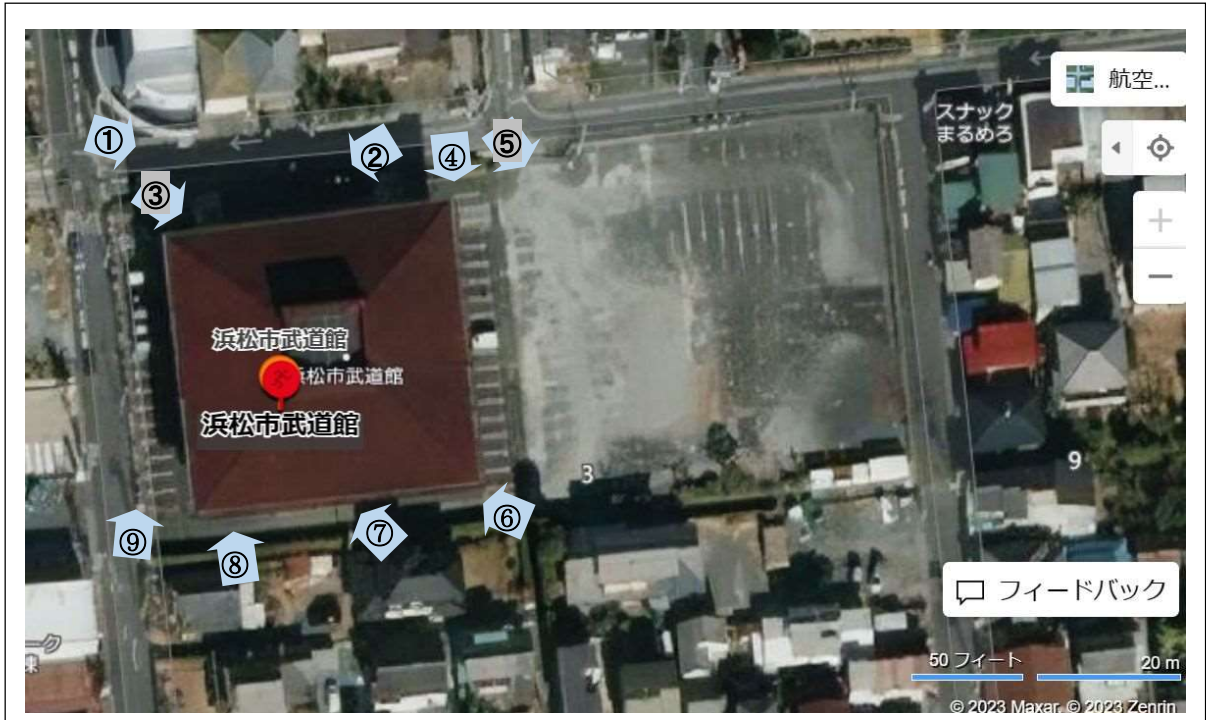


図 3-4 施設配置

出典：ゼンリンマップより引用



①



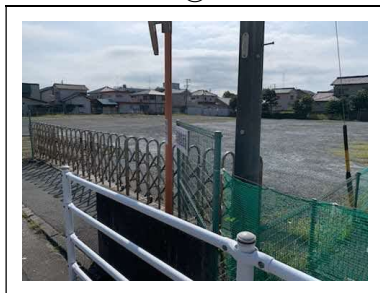
②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

写真3 施設の外観・外構

(2) 市内のスポーツ施設及び学校附設の武道館等の利用状況

利用状況を整理する施設は以下の 29 施設（スポーツ施設：9 施設、学校体育施設：20 校）であり、このうち、新武道館の整備検討に関連するスポーツ施設を整理すると以下の通りである。

表 3-3 市内のスポーツ施設・武道館機能を付帯する学校施設

スポーツ施設	学校体育施設
浜松市武道館	西部中学校
浜北武道館	北部中学校
天竜武道館	八幡中学校
浜松アリーナ	江西中学校
サーラグリーンアリーナ	富塚中学校
サンライフ浜北	浜松中部学園
浜北体育館	積志中学校
雄踏総合体育館	舞阪中学校
引佐総合体育館	雄踏中学校
	庄内学園
	東陽中学校
	可美中学校
	都田中学校
	細江中学校
	三ヶ日中学校
	浜名中学校
	北浜中学校
	浜北北部中学校
	亀玉中学校
	北浜東部中学校

### 3.2 浜松アリーナの利用状況（興行系催事）

浜松アリーナにおける興行系催事の利用状況を、以下に示す。

浜松アリーナはFリーグ（フットサル）アグレミーナ浜松のホームアリーナとして使用されており、過去6年間で2～17試合/年が開催されている。また、Bリーグ（バスケットボール）三遠ネオフェニックスのホームゲームも過去6年間で9～16試合/年が開催されている。

球技以外にも、相撲、格闘技、プロレスなどの催事も開催され、特に令和元年度のRIZINでは過去6年間で最大の約6,800人の一日平均利用人数を記録している。

FリーグやBリーグの試合における一日平均利用人数は450人～4,833人と試合によつてのばらつきがみられる。

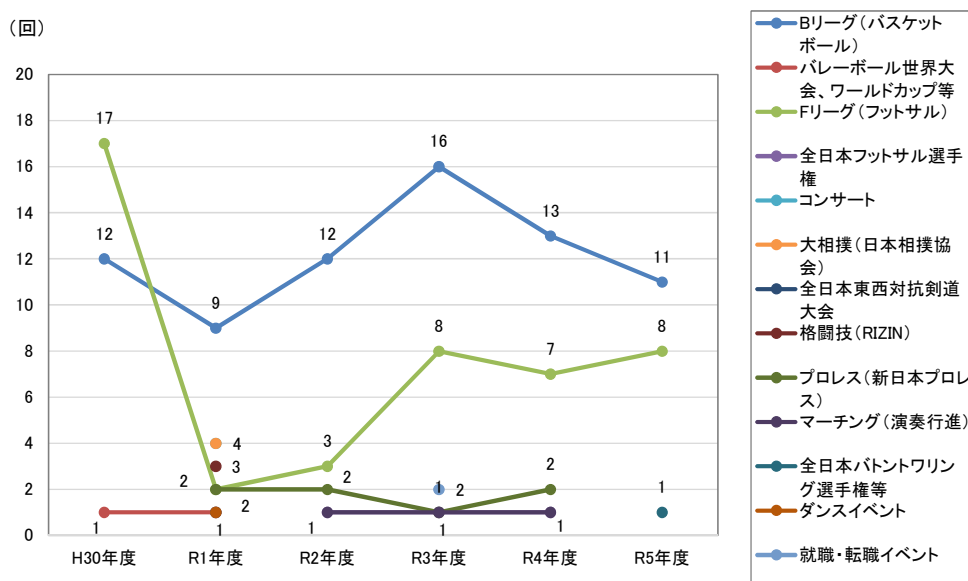


図 3-5 興行系催事開催数

表 3-4 興行系催事開催回数

(単位：回)

興行名	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
Bリーグ(バスケットボール)	12	9	12	16	13	11
バレーボール世界大会、ワールドカップ等	1	1				
Fリーグ(フットサル)	17	2	3	8	7	8
全日本フットサル選手権			1	1	1	
コンサート		4				
大相撲(日本相撲協会)		4				
全日本東西対抗剣道大会		1				
格闘技(RIZIN)		3				
プロレス(新日本プロレス)		2	2	1	2	
マーチング(演奏行進)			1	1	1	
全日本バトントワリング選手権等						1
ダンスイベント		1				
就職・転職イベント				2		
計	30	27	19	29	24	20

出典：市スポーツ振興課

### 3.3 関連競技団体の意見

#### (1) 競技団体の意見聴取概要

##### ① 目的

新武道館の整備検討に当たり、施設整備等の計画立案の参考とするため、施設利用が見込まれる関係団体の施設利用ニーズを把握する。

##### ② 聴取対象の競技団体と聴取日時

表 3-5 意見聴取した競技関連団体と意見聴取日時

競技団体名	担当者	意見確認日	備考
浜松剣道連盟	菊池 一宏 氏	10/16 メールで受領	
浜松市柔道協会西部支部	支部長 間宮 幸男 氏	9/29 10:00～11:00	
浜松市空手道連盟	吉林 康光 氏	回答なし	調査依頼済
浜松市合気道協会	杉山 正 氏	回答なし	調査依頼済
ダンススポーツ連盟	本村 幹夫 氏	9/15 メールで受領	
浜松卓球協会	平野 健司 氏	9/29 13:00～14:00	

※新体操は、市内に競技団体なし

表 3-6 意見聴取項目

区 分	項 目	内 容
(1) 団体概要	①カテゴリー別構成員	平常時利用者数、市内大会開催時の利用者数
	②構成員の推移・動向	競技人数の推移や今後の団体構成員数見込みなど
(2) 現在の武道館・浜松アリーナの利用状況	①使用頻度	日常（週単位の利用曜日）、大会時（年単位の月、期間）の各規模（必要面積（コート等の仕様（畳、板張り）・数、ウォーミングアップ時の必要面積）
	②利用に関する評価	満足、課題（改善点）、要望
(3) 新武道館の整備について	①施設の整備要望	コート規格（寸法、畳、板張り）、天井高、その他（コート外スペース（得点板・ベンチ）の必要性、トレーニングスペース、観客席、その他諸室等
	②外構、設備等の要望	施設内の必要設備等（競技特有の必要な照明・採光・空調設備等、電光掲示設備、収納機材・必要規模、授乳スペース、キッズルーム）、日常、大会時の最大駐車台数（大型車、乗用車、バイク、自転車）
(4) その他	①施設利用時の飲食等購入可能性	自動販売機、売店、レストラン利用意向
	②競技以外の利用	会議、イベント等

## (2) 競技団体の意見（要旨）

### ① 団体概要

各団体とも現状は選手、指導者等を含め 500 名程度（卓球協会は会員 3,000 名であるが、大会規模は 1,000 名を下回る）、今後の構成員についても、各団体とも中学校の部活動の指導者や選手の高齢化等もあり、現状を超えることは見込まれていない。

表 3-7 団体概要

団体名称	カテゴリー別構成員	構成員の推移・動向
剣道連盟	—	—
柔道協会西部支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手：小・中・高校生で各100名</li> <li>・段位判定時：中学生初段認定 50名、指導者50名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中学校の指導者や道場など、諸事情もあるが、減少傾向は否めない。</li> </ul>
ダンススポーツ連盟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手：300～500名</li> <li>・指導者（監督・コーチ）、審判員、役員：30名～50名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・150～500人位（今後は高齢化に伴い減少する可能性有）</li> </ul>
卓球協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員登録数：約3,000名(2022年度)</li> <li>一般 男子 496、女子 261</li> <li>小学生 男子 76、女子 76</li> <li>中学生 男子 1,116、女子 952</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催大会の参加数は、コロナ禍以前、特に中学生の参加が多く 1,000 名超の申込みがあったが、中学校の部活参加の規制により、現在の参加数に減ってきたところである。</li> <li>・今後、中学生の部活動廃止で、競技人口減も予想される。一方、近年、卓球は生涯スポーツとして人気があり、健康維持のため、競技人口の増も見込まれる。</li> </ul>

※調査期間中に、空手道連盟及び合気道協会からの回答はなかったため不記載とした。

② 現在の武道館・浜松アリーナの利用状況

各団体とも、試合を主とした使用会場は浜松市武道館よりも浜松アリーナや市内の他の体育施設を利用する場合も少なくなく、浜松アリーナの利用希望がプロリーグの使用を含め、過多の状況が見受けられる。

表 3-8 現在の武道館・浜松アリーナの利用状況

団体名称	使用頻度	利用に関する評価
剣道連盟	<p>[浜松市武道館]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松剣道連盟主催の級審査会で使用 (2023.2: 従事者 28名、受審者 163名) (2022.10: // 44名、 // 213名) (2022.6: // 26名、 // 160名)</li> </ul> <p>[浜松アリーナ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県西部地区剣道大会兼永峰杯争奪剣道大会 (9月): メインアリーナを使用 (12試合会場を設置)、サブアリーナは、審判監督会議、ウォーミングアップ、練習用として使用 約1,129名、応援 約2,000名超</li> <li>・浜松市スポーツ祭、剣道大会 (11月): 西部大会とほぼ同様の規模</li> <li>・塩谷杯争奪剣道大会 (3月): 小学生利用 (メイン、サブの両アリーナ使用)</li> </ul>	<p>[浜松市武道館]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査会以外の行事 (各種講習会、中体連行事等) は、浜松市武道館では必要なスペースを確保できないため、可美公園総合センター体育館、雄踏総合体育館、サーラグリーンアリーナ等で実施</li> </ul> <p>[浜松アリーナ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場の広さは満足 (一般～小学生迄の大会を1日で開催可)</li> <li>・プロリーグ等の参入により、11月の大会が開催不可 (規模縮小等を検討中)</li> <li>・駐車場 (650台収容) は、大会時に制約有、近隣の有料駐車場利用で対応</li> <li>・メインアリーナとサブアリーナ間の移動に制約 (裸足の移動環境を希望)</li> <li>・会議室 (60名) は大会時に手狭、審判監督会議用に140名以上の会議室希望</li> </ul>
柔道協会西部支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両施設とも、現状の規模に応じて使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏場の空調不調 (窓はあるが、現状では剣道用の防音窓のため使用不可)</li> </ul>
ダンススポーツ連盟	<p>[浜松アリーナ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技会: 年間4～5回 (350～1500㎡位、日曜日・祭日)</li> <li>・イベント: 年間2～3回 (350～1500㎡位、日曜日・祭日)</li> <li>・交流会: 年間4回 (350～1500㎡位、日曜日・祭日)</li> <li>・学習教室: 週3回 (約200㎡位、土曜日、平日)</li> <li>・大会時40m×34mを使用1階・2階席を選手控えと見学者に使用</li> </ul>	<p>[浜松アリーナ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2階席がある、照明、冷暖房があることは満足</li> <li>・エントリーが難しい (希望日に予約できると良い)</li> <li>・空調機は必要 (冷房故障時の窓)</li> </ul>
卓球協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松卓球協会主催大会 8大会 浜松アリーナ・雄踏 900名 (一般・小中高)</li> <li>・浜松リーグ 前期・後期 浜北サーラグリーンアリーナ 1,000名 (一般) [参考: サーラグリーンアリーナ]</li> <li>・浜北支部主催大会 4大会 600名 (一般・小中高)</li> <li>・普及部 6大会 350名 (一般) [参考: 雄踏]</li> <li>・浜松レディス 1大会 250名 (一般)</li> <li>・少年育成部 4大会 200名 (小学生)</li> <li>・ラージボール部 6大会 350名 (一般)</li> </ul>	<p>[浜松アリーナ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内で外履からフロアシューズに履替えれば、施設内の制約なし (サーラグリーンアリーナは、履替場所が指定、その都度の履替えは不便)。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会数も多く、会場確保に苦慮</li> <li>・卓球台の老朽化あり、継続更新を希望</li> </ul> <p>[要望]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松アリーナの会場抽選対象日について、利用年月の一年前の月の1日に抽選会を実施しているが、抽選日が優先利用等で抑えられており、抽選対象日が1日(土、日)程度しかない時がある。プロリーグ等が土日を抑えるなど、興行利用は平日夜開催等で工夫し、抽選対象日の最低4日程度確保を要望。</li> </ul>

### ③ 新武道館の整備について

競技団体によっては年間に数日開催される大規模な大会を含む会場利用を新武道館に求める（剣道連盟、卓球協会）意見と、浜松市武道館の規模に観覧や会議等の不足機能を追加で対応可能と見込まれる意見に分れる。

表 3-9 新武道館の整備について

団体名称	施設の整備要望	外構、設備等の要望
剣道連盟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会が開催できる規模の武道館の新設を希望（浜松アリーナにおける剣道大会開催が不可能に近い状態）</li> <li>・床：力強い踏込みに対応可能な弾力性確保、穴のないフラット床を希望</li> <li>・観客席：西部地区剣道大会兼永峰杯の収容人数は、2,000人超</li> <li>・会議室：審判監督会議で200人収容</li> <li>・更衣室、シャワー、ロッカーは希望</li> <li>・サブ道場：メイン会場で大会時に控え選手の練習スペース必要、観客席併設必要 ※県武道館の規模参照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房器具、換気設備は必要</li> <li>・大型の電光掲示板</li> <li>・キッズルームは必要</li> <li>・大会時の待機場所は、サブ道場または観客席で対応可</li> <li>・駐車場：西部大会で約1,400台程度</li> </ul>
柔道協会西部支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時またはフロアに畳敷で対応可（最低、4面の試合スペース希望）</li> <li>・観覧席：選手、父兄等の控えを含め20～30席/チームは必要</li> <li>・会議室、研修室：浜松市武道館規模で可</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房器具、換気設備は必要</li> <li>・電光掲示板の保管スペース、畳の収納スペース（湿気対策含）要</li> <li>・キッズルームは会議室併用可</li> <li>・駐車場は、浜松市武道館規模で可</li> </ul>
ダンススポーツ連盟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板張を希望、天井高さに希望なし</li> <li>・トレーニングスペースは不要</li> <li>・2階観客席は便利、なければ椅子配置スペースで対応可</li> <li>・会議室は大会時の審判、役員の休憩を兼ねて必要</li> <li>・更衣室、下足置場、ロッカーは必要（100～500名）、シャワーは不要</li> <li>・机、椅子、掲示板、防球ネットがあれば便利、大会名表示の上下垂幕・吊下棒は上下可動の壁板でも可</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・照明は必要、得点板、電光掲示板があれば便利</li> <li>・駐車場は、大会・イベント時約300台（乗合せも多）、教室利用：約20台</li> </ul>
卓球協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリーナ面積：サーラグリーンアリーナのメインと同規模(53m×38m)</li> <li>・天井高：観覧席を設ければ、15m程度となり、問題ない。</li> <li>・その他スペース：大会運営で本部席を設置、長机8脚程度 奥行4mあれば十分。</li> <li>・ベンチスペース：台の後方3列を防球フェンスで仕切り、その中に設置。</li> <li>・壁面：白以外で着色されたもの。木の素材等は可。</li> <li>・観覧席（1,000席程度）とアリーナフロアの連絡：観覧席から直接フロアに降りられる階段を四隅に配置</li> <li>・サブアリーナ：卓球台8台程度設置できる広さを確保</li> <li>・会議室・研修室：大会運営室として60㎡程度（運営スタッフが30名程度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内の照度：卓球台上で750ルクス（1/2点灯）から1500ルクス（全灯）を確保要（自然光が入らないよう、遮光カーテン、ブラインドを設置、高所は電動対応、メンテナンス用のキャットウォークを設置）</li> <li>・エアコン：エアコン設備要（空調設備からの吹き出しの風速が速いと競技に影響がでるため、吹き出し口の位置や風速に注意）</li> <li>・更衣室・シャワー室、ロッカー：希望</li> <li>・駐車場：一般が主の大会時に最低350台は必要、送迎レーンは必要</li> </ul>

④ その他の意見等

施設利用における飲食等の導入について、浜松市武道館の使用時には使用者が必要な飲食物を個別に持ち込んでいることもあり、浜松市武道館が設置している自動販売機での対応に大きな不足は見られない。

また、競技以外の施設利用について、競技の普及活動の他にはコンサート使用がアイデアの一つに挙げられた。

表 3-10 その他の意見等

団体名称	施設利用時の飲食等購入可能性	競技以外の利用
剣道連盟	・自動販売機は、相当数希望	・コンサート等
柔道協会西部支部	・自動販売機は、浜松市武道館（3台）程度で可	・特になし
ダンススポーツ連盟	・あれば便利で利用するが、なくても良い	・普及活動と各教室のレッスン場として利用
卓球協会	・特になし	・特になし

### 3.4 新武道館の施設機能・規模

#### (1) 施設機能・規模

新武道館の施設機能は、大きく、メインとサブのアリーナを含む競技空間、会議室等の所要室、廊下等の共用部に3区分し、延べ床面積は約7,600㎡程度、建築面積はメインとサブの両アリーナを同一階で併設するとすれば、約6,000㎡程度が見込まれる。

メインアリーナは「板張り」とし、剣道の試合場(8面)以上、床面積約2,000㎡(35×56m)は確保することで、剣道や空手等の武道以外にも卓球やダンス等の利用も想定する。

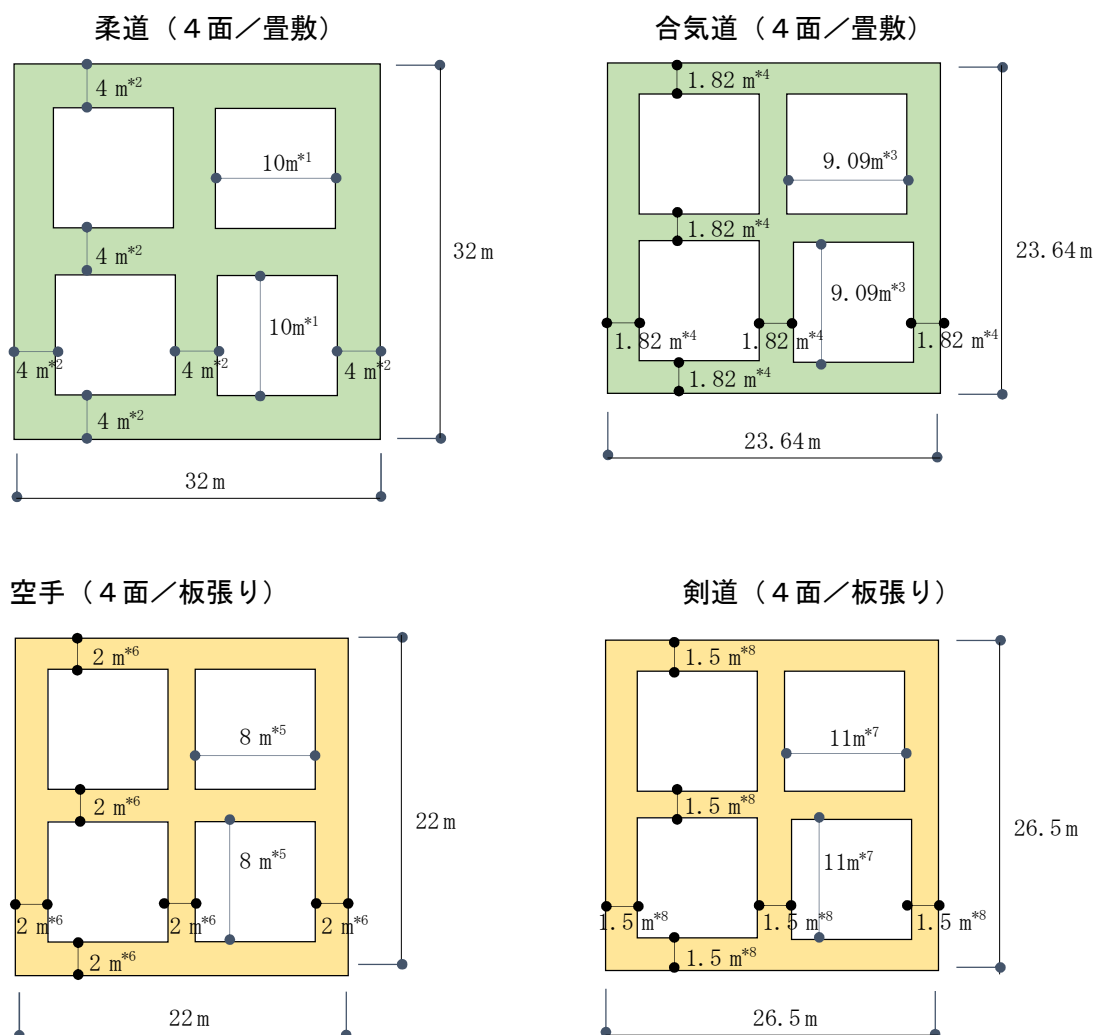
サブアリーナは、平常時は柔道や合気道で使用する「畳敷」スペース(柔道:2試合場)を確保、剣道や空手の大会時には畳を外しウォームアップ等のスペースに活用する。

表 3-11 施設機能・規模

機 能		面積 (㎡)	規模 (目安)	備 考	
競 技 空 間	メインアリーナ (板張り)	板張り 上に一 部、畳敷	2,000	最低8面 1,364.75㎡(26.5×51m/剣 道)	主に武道用の為 ネット設置用 ポール穴なし
	サブアリーナ (畳敷・板張り)		1,200	最低4面 1,024㎡(32×32m/柔道)	
	観覧席		1,200	最大2,000人以上を確保(剣 道:西部地区剣道大会兼永峰杯 の収容人数) 固定席980席、車いす用15席、 仮設席1700席、計2,695席相 当	固定、可動席で 配分
所 要 室	会議室		120	大会時の使用を最大とし、剣道 連盟の200人収容を想定し、分 割して確保(他団体が要望する 60㎡程度は確保)、10~20名 程度の利用と想定	団体ヒアリング 等を参考に利用 者数を想定
	指導員室		60		
	ロッカー(男・女)		75		
	シャワー室		85	3.3㎡/人×25人	
	トイレ(男・女・多目的)		200	浜松市武道館の準備室面積の 割合2~3%程度と同程度と想 定	
	準備室(多目的室)		200		
	倉庫		470	〃 5~7% 〃	
	事務室		50	5㎡/人×10名程度	
	電気室・屋上設備機器置場		400	想定される延床面積の5%程度	
エレベーター(ホール含)		80	40㎡/台×2台	建築基準法施行 令第129条の9	
共 用 部	エントランスホール (シューズスペース含)		600	想定される延床面積の5~10% 程度	
	通路・廊下		600	想定される延床面積の5~10% 程度	
	階段		250	想定される延床面積の3%程度	
計			約7,600		

## (2) 道場の規模

武道競技における公式大会の開催規模を考慮した場合、道場の規模は以下のようになる。



\*1 場内の寸法

国際柔道連盟規定：8~10m四方  
講道館規定：5間 (9.1m) 四方

\*3 場内の寸法

日本合気道協会規定：5間 (9.09m) 四方

\*5 場内の寸法

日本空手協会規定：8m四方

\*7 場内の寸法

全日本剣道連盟規定：9~11m四方

\*2 場外の寸法

国際柔道連盟規定：3~4m  
講道館規定：1.5間 (2.73m)

\*4 場外の寸法

日本合気道協会規定：約1間 (約1.82m) 以上

\*6 場外の寸法 (試合場周辺の緩衝帯)

日本空手協会規定 2m以上

\*8 場外の寸法

全日本剣道連盟規定：1.5m

図 3-6 武道場の規模

### (3) スポーツ系興行の規格

浜松アリーナで行われるスポーツ系の興行のうち、新武道館で想定する床面にポール等の埋め込みを必要としないスポーツにおける規格について、コートを示すと下表の通りである。

表 3-12 興行（スポーツ）の際の規格

対 象	コート	備 考
フットサル（Fリーグ）	25～42×16～25m	国際試合以外
	38～42×20～25m	国際試合
バスケットボール（Bリーグ）	15×28m	U15以上

### (4) 駐車場の規模

駐車場の規模は、大会時の利用を最大と見込み、乗用車 290 台、大型車（バス）18 台を必要規模に設定（P25 参照）、合計約 13,400 m<sup>2</sup>が必要と見込む。

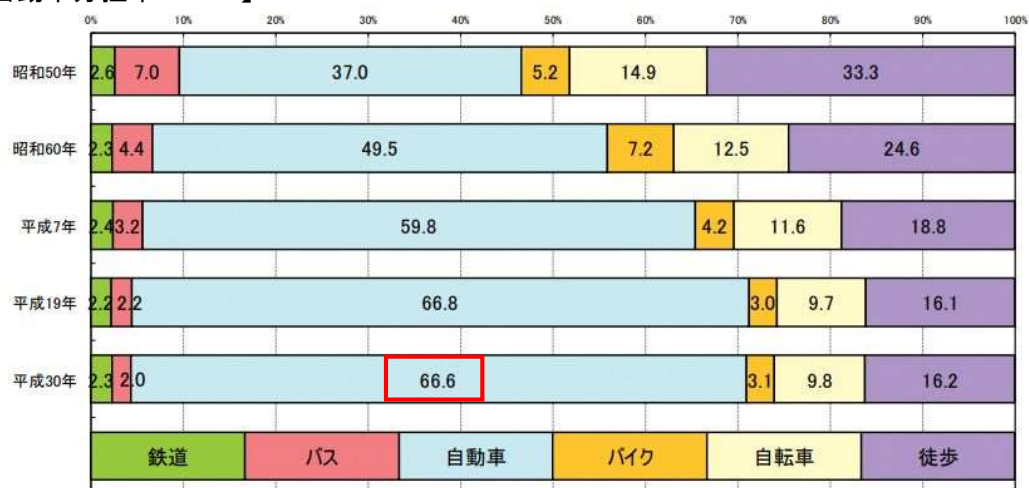
表 3-13 駐車場の規模

駐車場分類	必要収容台数（台）	駐車ますの大きさ ※最小値	備 考
乗用車	290	長さ 5.0m×幅 2.3m	走行スペースを駐車マスの約 3 倍程度と想定
大型車（バス）	18	長さ 13.0m×幅 3.3m	

#### 【施設利用者数=2,000 人】

- ・大会時を最大とすると、剣道連盟による大会時に約 2,000 人の利用が想定される。
- ・団体戦の場合、参加校 35 校（男女 計 20 人/校+運営者 3 人/校）とすれば、バス利用者数は約 800 人と想定

#### 【自動車分担率=67%】



資料：第 1～4 回西遠都市圏 PT 調査を基に作成

※2018(平成 30)年は推計値(第 4 回西遠都市圏 PT 調査の 2007(平成 19)年値を 2018(平成 30)年の夜間人口等で補正)

図 3-7 自動車分担率の推移

【乗用車平均乗車人員=1.3人/乗用車】

- ・国土交通省が公的に使用している乗用車の平均乗車人数の値は1.3人である。

出典：日本デザイン学会研究発表大会概要集/一般社団法人 日本デザイン学会  
日本デザイン学会研究発表大会概要集 57 (0), H08-H08, 2010

【乗用車 収容台数≒290台】

- ・大会時参加者数のうち、応援者 約 1,000人×自動車分担率 0.67÷平均乗車人員 1.3人×2 (大会時の乗合わせ) ≒260台×1.1≒290台

【大型車 (バス) 収容台数≒18台】

- ・最大 35校参加
- ・駐車マスの使用 (乗降) 時間 10秒/人×23人×1.5 (余裕時間) ≒6分/台・校
- ・15分間で1駐車マス当たり2校が使用可
- ・35校の場合、17.5台≒18分で乗降対応可能

【駐車場の規模】

- ・乗用車用スペース≒ 11,000㎡ (10,150㎡ (35㎡/台×290台) )
- ・バススペース ≒ 2,400㎡ (2,340㎡ (130㎡/台×18台) )
- ・駐車ますの大きさは、設計対象車両に応じて以下に示す値以上とする。

表 3-14 駐車ますの大きさ

[単位：m]

設計対象車両	長さ	幅員	
軽自動車	3.6	2.0	
小型乗用車	5.0	2.3	+通行スペース=駐車マス×3倍≒35㎡
普通乗用車	6.0	2.5	
小型貨物車	7.7	3.0	
大型貨物車およびバス	13.0	3.3	+通行スペース=駐車マス×3倍≒130㎡

出典：駐車場設計・施工指針

表 3-15 駐車場の諸元

車種	駐車角	駐車方式	車路幅AW (m)	車路に直角方向に駐車幅Sd (m)	車路に平行方向に駐車幅Sw (m)	単位駐車幅W (m)	1台当りの駐車所要面積A (m <sup>2</sup> )	備考
小型車	30°	前進駐車	4.00	4.70	5.00	6.70	33.50	W=AW/2+Sd A=W×Sw
	45°	〃	4.00	5.30	3.55	7.30	25.70	
	45°交差	〃	4.00	4.45	3.55	6.45	22.90	
	60°	〃	5.00	5.60	2.90	8.10	23.50	
	60°	後退駐車	4.50	5.60	2.90	7.85	22.80	
	90°	前進駐車	9.50	5.00	2.50	9.75	24.40	
	90°	後退駐車	6.00	5.00	2.50	8.00	20.00	
大型車	30°	前進駐車 前進発車	4.00 6.00	9.40	6.60	19.40	128.00	W=AW+sd A=W×Sw
	45°	〃	7.00 6.50	11.50	4.70	25.00	117.50	
	60°	〃	11.00 7.50	12.90	3.80	31.40	119.30	
	90°	〃	19.00 11.00	13.00	3.30	43.00	141.90	
	平行	後退駐車 前進発車	6.00	3.30	19.00	6.30	119.70	
	大特型殊	平行	後退駐車 前進発車	6.00	3.50	25.00	6.50	

出典：旧日本道路公団設計要領第四集 休憩施設

## (5) 敷地の規模

前述した施設規模を踏まえ、候補地を選定する際の前提条件となる最低敷地規模は約 63,400 m<sup>2</sup>と見込まれる。

### ① 新武道館の建築用地面積（約 50,000 m<sup>2</sup>）

算定した新武道館の建築面積約 6,000 m<sup>2</sup>に対し、3 候補地がいずれも都市公園で建蔽率 12%と指定されていることから、建築用地として必要な敷地面積は最低約 50,000 m<sup>2</sup>となる。

### ② 新武道館に必要な最大駐車場面積（約 13,400 m<sup>2</sup>）

各団体の大会時の利用を最大(ピーク)と想定した場合に必要な駐車場面積は約 13,400 m<sup>2</sup>となる。

## 第4章 モデルプランの検討と概算工事費の算出

### 4.1 モデルプランの検討

#### (1) モデルプランの基本的な考え方

モデルプランを検討する際の基本的な考え方を、以下のように設定する。

#### 【新武道館整備の基本的な考え方】

- 武道館として一定規模の競技大会が開催できる。
- 武道競技を主としつつ、パラスポーツや講習・研修会など、多目的利用（インクルーシブ）にも対応できる。

#### (2) モデルプランの検討

モデルプランは、メインアリーナの大きさの異なる以下の2案を設定する。

#### 4-1 モデルプランの設定

項目	A 案 (メインアリーナ：56×35m=1,960 m <sup>2</sup> )	B 案 (メインアリーナ：56×42m=2,352 m <sup>2</sup> )
■施設概要	メインアリーナ8面+サブアリーナ2面	メインアリーナ12面+サブアリーナ2面
➤ 建築面積	5,602 m <sup>2</sup>	6,064 m <sup>2</sup>
➤ 延床面積	7,294 m <sup>2</sup>	7,847 m <sup>2</sup>
1階床面積	5,273 m <sup>2</sup>	5,735 m <sup>2</sup>
2階床面積	1,636 m <sup>2</sup>	1,727 m <sup>2</sup>
塔屋面積	56 m <sup>2</sup>	56 m <sup>2</sup>
外部床面積	329 m <sup>2</sup>	329 m <sup>2</sup>
■観客席数（固定）	903席 車いす用：15席	983席 車いす用：15席
仮設席	1,344席	1,680席
■メインアリーナの施設利用	<p>○概ね1,000人規模の大会が1日で開催可能 〔中体連大会前シード決定大会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季大会前：男女団体戦 男女（各35校）：競技者560名、運営者40名、観客数350名</li> <li>・新人大大会前：男女団体戦 男女（各35校）：競技者560名、運営者40名、観客数350名</li> </ul>	<p>◎左記の大会の他、2,000人程度の大会が1日で開催可能 〔県西部剣道大会兼永峰杯争奪剣道大会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・192団体、選手数1,129名、応援者1,100人超</li> </ul> <p>〔夏季大会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体戦 男女（各35校）：競技者700名、運営者240名、観客数1,000名</li> <li>・個人戦 男女：競技者260名、運営</li> </ul>

		者 120 名、観客数 550 名 ○〔新人大会〕 ・団体戦 男女（各 35 校）：競技者 700 名、運営者 240 名、観客数 800 名
卓球の大会	○概ね 500～600 人規模の大会が 1 日で開催可能 〔浜北支部主催大会〕 ・一般、小・中高生 600 名	◎左記の大会の他、1,000 名規模の大会を 1 日で開催可能 〔浜松卓球協会主催大会〕 ・一般、小・中高生 900 名 〔浜松リーグ（前・後期）〕 ・一般 1,000 名
<b>■受入可能な競技(メインアリーナ)</b>		
剣道	8 面 (11m 角)	12 面 (11m 角)
フットサル	1 面 (コート：38×18m)	2 面 (コート：38×18m)
ハンドボール	1 面 (コート：40×20m)	2 面 (コート：40×20m)
新体操	6 面 (13m 角)	9 面 (13m 角)
卓球	20 台(14×7m/3 台・面)	24 台(14×7m/3 台・面)

[A案：メインアリーナ8面+サブアリーナ4面]

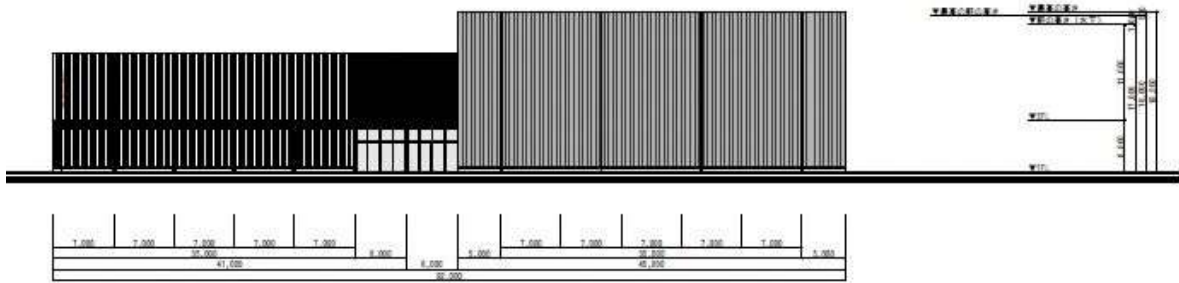
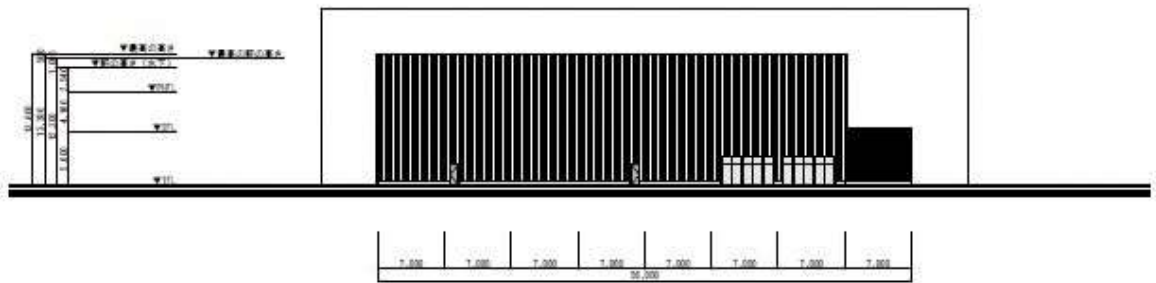
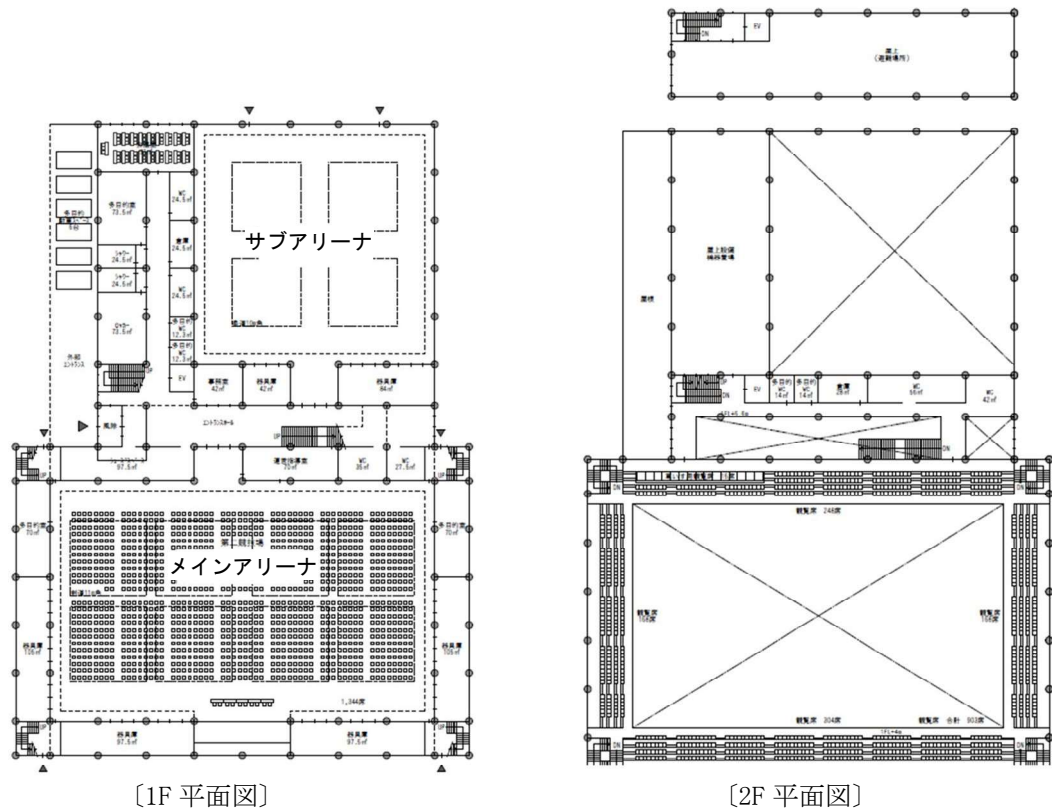
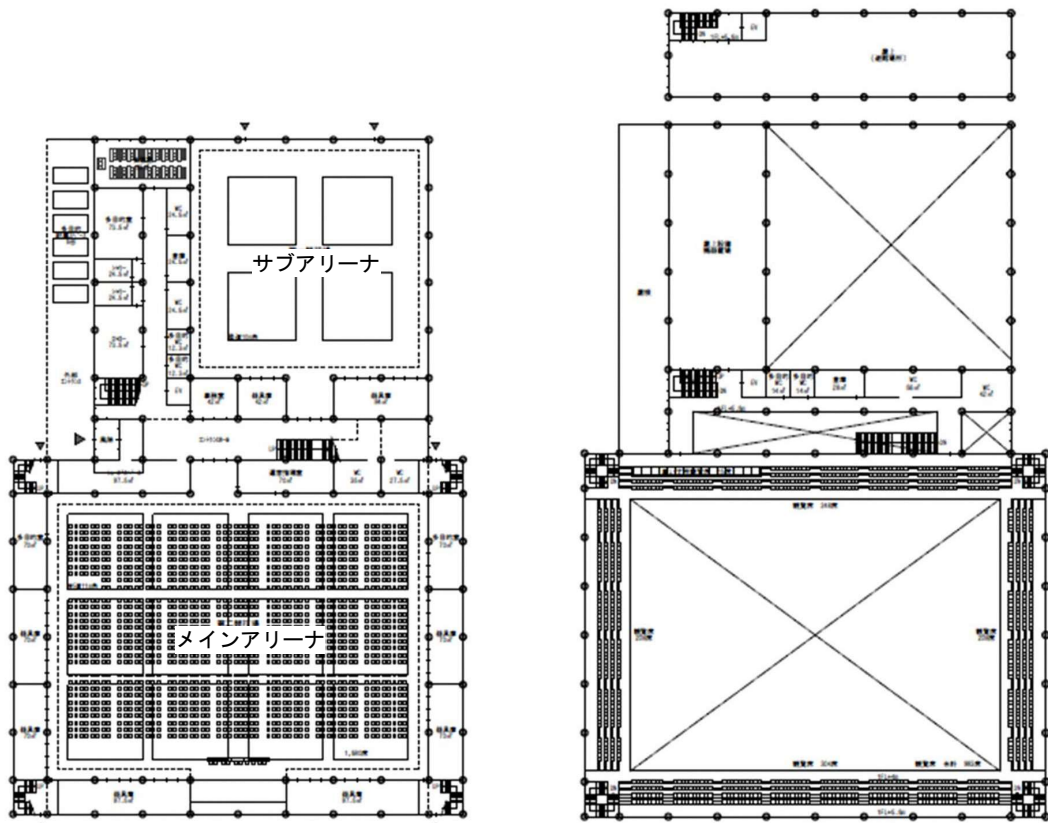


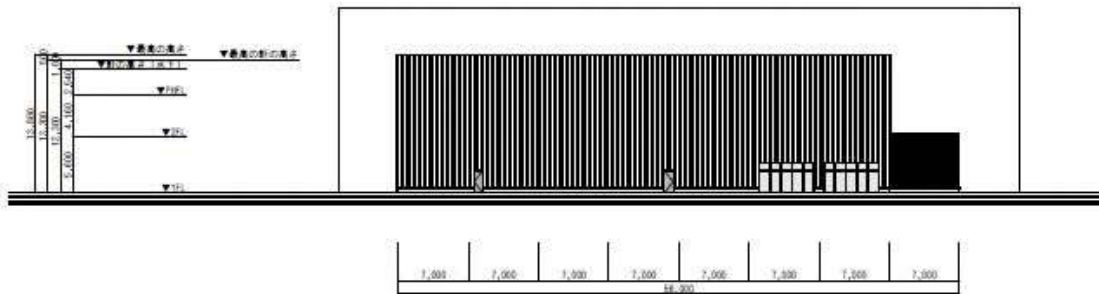
図 4-1 モデルプラン (A案)

〔B案：メインアリーナ 12面+サブアリーナ 4面〕

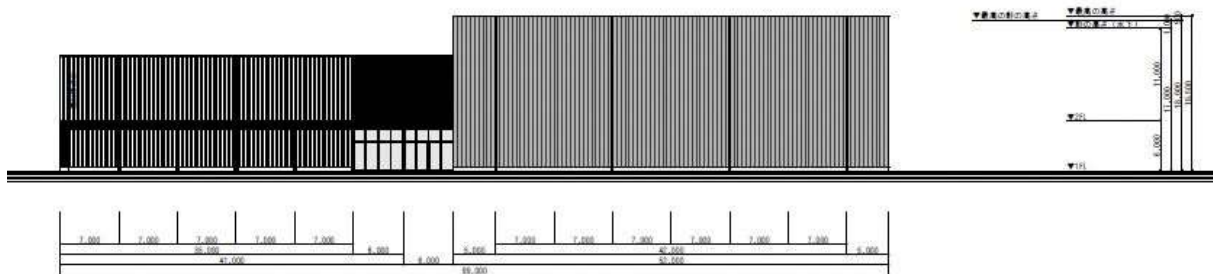


〔1F 平面図〕

〔2F 平面図〕



〔短辺方向 立面図〕



〔長辺方向 立面図〕

図 4-2 モデルプラン (B案)



[イメージパース]

図 4-3 モデルプラン (B案)

※ モデルプラン (A案) は、B案より長辺方向のスパンが短くなるが、外観イメージは大きく変わらない

## 4.2 概算工事費の算出

### (1) 単価の設定

概算工事費を算出する上での単価を、以下のように設定する。

新武道館 概算建設費(2023年現在)					
浜松市内の類似事例の落札価格に国土交通省の建設工事費デフレーター指数をから値上がり率を考慮して算出。					
<b>物件名</b>	<b>浜松市市民音楽ホール（都田）</b>				
敷地面積	30,035.27	m <sup>2</sup>			
建築面積	3,873.79	m <sup>2</sup>	※庇除く		
延床面積	5,989.81	m <sup>2</sup>	※庇除く		
<b>・ 建築工事</b>					
入札日	2019年5月				今回採用
落札価格	2,370,000,000	税抜き価格			床面積当たり単価
床面積当たり	395,672	円/m <sup>2</sup>	→2023年へ換算 1.17倍	462,936	円/m <sup>2</sup>
					<b>462,000</b> 円/m <sup>2</sup>
<b>・ 電気設備工事</b>					
入札日	2019年7月				
落札価格	355,000,000				
床面積当たり	59,267	円/m <sup>2</sup>	→2023年へ換算 1.17倍	69,343	円/m <sup>2</sup>
					<b>69,000</b> 円/m <sup>2</sup>
<b>・ 機械設備工事</b>					
入札日	2019年5月				
落札価格	590,000,000				
床面積当たり	98,501	円/m <sup>2</sup>	→2023年へ換算 1.17倍	115,246	円/m <sup>2</sup>
					<b>115,000</b> 円/m <sup>2</sup>
<b>・ 外構工事</b>					
入札日	2020年2月				今回採用
落札価格	219,870,000				敷地面積当たり単価
敷地面積当たり	7,320	円/m <sup>2</sup>	→2023年へ換算 1.16倍	8,492	円/m <sup>2</sup>
					<b>8,500</b> 円/m <sup>2</sup>
国土交通省					
建設工事費デフレーター（2015年度基準）指数					
2019年5月	106.6	→	2023年8月へ換算	<b>1.17</b>	倍
2019年7月	107.1			<b>1.17</b>	倍
2020年2月	108.1			<b>1.16</b>	倍
2023年8月	124.9				



### (3) 概算工事費の比較

A案とB案の概算工事費を以下に比較する。税込みの概算事業費は、A案は約55億円、B案は約58億円となる。A案よりも建築面積の大きいB案は、A案に対して約7%割高となる。

表 4-3 概算工事費の比較

	A 案	B 案	
敷地面積	33,000 m <sup>2</sup>	33,000 m <sup>2</sup>	地図データ上の概数
建築面積	5,602 m <sup>2</sup>	6,064 m <sup>2</sup>	
延床面積	7,294.00 m <sup>2</sup>	7,847.00 m <sup>2</sup>	
工事費 (百万円)		※税別	
建築工事	3,370	3,625	税抜金額
電気設備工事	503	541	
機械設備工事	839	902	
外構工事	281	281	
合計	<b>4,992</b>	<b>5,350</b>	
消費税 (10%)	499	535	
合計 (税込み)	5,491	5,885	
比率	1.00	1.07	

## 第5章 建設候補地の検討

### 5.1 建設候補地及び施設規模の条件

#### (1) 施設整備候補地検討の考え方

新武道館の整備候補地は、いずれも想定される施設規模（約 63,400 m<sup>2</sup>）を確保可能であるが、現時点において区域内の既存施設廃止等による敷地の確保または区域指定の見直しを必要とする（表 5-1 参照）。

このため、ここでは今後の状況の変化等も踏まえつつ、候補適地の検討段階で参考となるよう、以下に示す項目（表 5-2 参照）の検討結果を整理する。

表 5-1 各候補地における新武道館の施設面積の確保について

判定項目	雄踏町宇布見 (雄踏総合公園)	篠原町 (遠州灘海浜公園*)	増楽町 (可美公園)
都市公園の計画面積	169,000 m <sup>2</sup>	122,000 m <sup>2</sup>	138,100 m <sup>2</sup>
用地確保の可否	・都市公園区域内の既存施設廃止及び用途変更等による用地確保が必要。	・既存施設の南北の区域は都市公園として認可申請済、建蔽率の緩和や東側用地の施設整備との調整、隣接地への拡大等により用地確保が必要。	・都市公園区域内の既存施設廃止及び用途変更等による用地確保が必要。

\* 市総合水泳場を含む施設の南北の区域

表 5-2 候補地の比較検討項目

検討項目	内 容	備 考
① 建築面積の確保	・都市公園区域における建蔽率（3 候補地ともに 12%）を踏まえ、候補地内で新武道館の整備の可否を検討する。	・モデルプランのうち、A 案よりも規模が大きい B 案の整備可否を検討することで B 案が整備可能な場合、A 案も整備可能と判断できる。
② 立地環境の安全性	・ハザードマップ（洪水、土砂災害、津波）で危険性の有無を検討する。	・浜松市防災マップによる。
③ 公共交通機関の利便性	・最寄り駅からの移動時間及び最寄りのバス停留所の運行ダイヤからみた利便性を検討する。	・遠州鉄道株式会社の遠鉄バス時刻表による。

## (2) 候補地の比較検討

### ① 建築面積の確保について

新武道館の想定建築面積約 6,000 m<sup>2</sup>に対し各候補地は都市公園区域内であることから、都市公園法上の建蔽率は12%であり、整備可能な建築面積は下表のとおりである。但し、雄踏町宇布見と増楽町は既存施設の廃止等、篠原町は建蔽率の緩和または隣接地の施設整備との調整など、各々、新武道館の整備に課題を残す。

表 5-3 候補地の建築面積の確保について

項目	(単位)	候補地		篠原町		増楽町		
		雄踏町宇布見 (雄踏総合公園)		(遠州灘海浜公園うち、市管理区域)		(可美公園)		
① 敷地面積(計画区域)	(m <sup>2</sup> )	—	169,000 <sup>*2</sup>	—	122,000	計画区域191,000m <sup>2</sup> から52,900m <sup>2</sup> を除外 <sup>*1</sup>	138,100	
② 用途地域		市街化調整区域		市街化調整区域		市街化調整区域		
③ 建蔽率	(%)	—	12	—	12	—	12	
④ 容積率	(%)	—	200	—	200	—	200	
⑤ 建築可能面積	(m <sup>2</sup> )	①×②	—	—	14,640	—	16,572	
⑥ 既存建築物 建築面積	(m <sup>2</sup> )	計	計	1,157	計	12,681	計	9,215
			庭球場、水泳場 <sup>*3</sup>	1,157	総合水泳場 <sup>*4</sup>	12,385	体育館、水泳場、弓道場 <sup>*3</sup>	9,215
			ソフトボール場		トイレ、四阿 <sup>*4</sup>	296	テニスコート	
			球技場				サッカー場	
			多目的スポーツ広場				野球場	
			ゲートボール場				ゲートボール場	
芝生広場								
せせらぎ広場								
⑦ 残建築面積	(m <sup>2</sup> )	⑤-⑥	—	—	1,959	—	7,357	

\*1 浜松市都市計画公園の見直し計画(平成26年10月)に基づく、浜松市都市計画公園整備プログラム

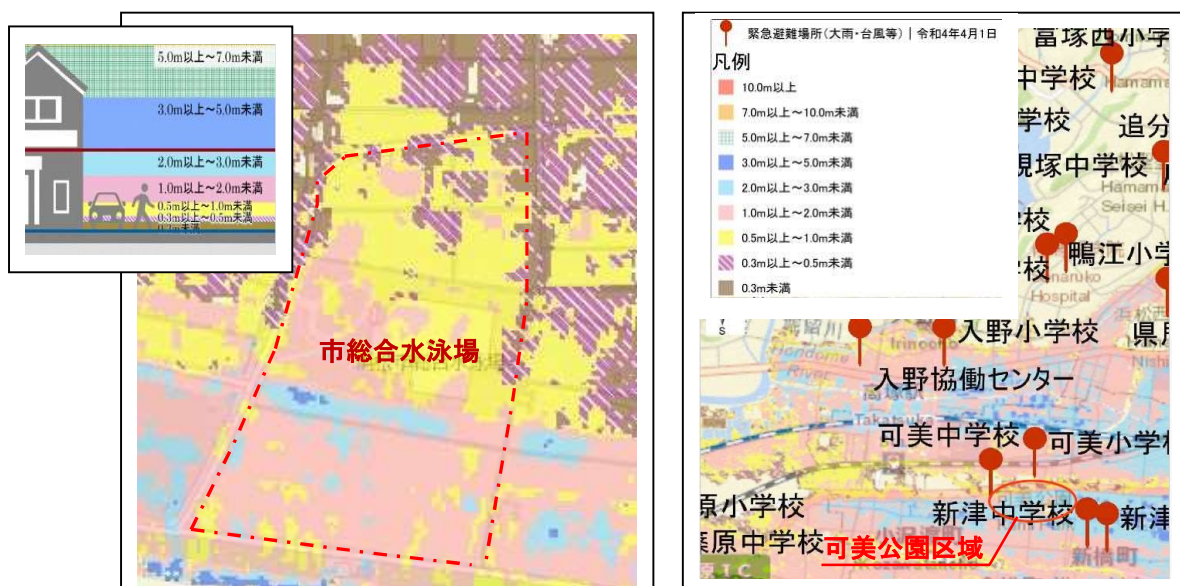
\*2 雄踏総合公園管理事務所

\*3 浜松市施設カルテ/スポーツ施設(2024.1.4) ※各施設とも階数:1階、総床面積の記載数値

\*4 浜松市公園課資料

### ② 立地環境の安全性

浜松市防災マップをみると、雄踏町宇布見はハザードの指定はないが、篠原町は市総合水泳場以南で津波浸水深 1.0 以上 2.0m 未満、北側は 0.3m~1.0m 未満の想定、増楽町は天竜川洪水ハザードマップで 2.0 以上~3.0m 未満の浸水が想定され、施設の建設には一定の対策が必要である。



[篠原町：津波浸水深]

[増楽町：天竜川洪水ハザード]

図 5-1 候補地の立地環境の安全性

出典：浜松市防災マップ

③公共交通機関の利便性

1) 近傍の公共交通機関（最寄り駅）

最寄り駅までの車による移動時間は、増楽町（可美公園）が最も短く、次いで篠原町、雄踏町宇布見（雄踏総合公園）と続く。

表 5-4 最寄り駅までの距離

判定項目	雄踏町宇布見 (雄踏総合公園)	篠原町	増楽町 (可美公園)
最寄り駅までの距離	JR 舞阪駅から約 2.6km 車*で約 6 分の移動時間	JR 高塚駅から約 2.2km、 車*で約 5 分の移動時間	JR 高塚駅から約 1.5km 車*で約 3 分の移動時間

\* 自動車移動距離（郊外）：約 420mと想定

2) 最寄りバス停留所とバスの運行ダイヤ

最寄りバス停留所は各候補地ともに 1 箇所あり、距離的な差はなく、各バス停留所の平日・休日（土曜日、日曜日、祝日）の運行ダイヤをみると、増楽町（可美公園）の利便性が高い。

表 5-5 最寄りバス駅の運行本数

〔雄 踏〕			〔篠 原〕			〔増 楽〕		
時間	平日	休日	時間	平日	休日	時間	平日	休日
05	2本	1本	05	0本	0本	05	0本	0本
06	3本	1本	06	0本	0本	06	3本	2本
07	3本	2本	07	0本	0本	07	4本	1本
08	2本	1本	08	0本	0本	08	3本	2本
09	2本	3本	09	0本	0本	09	2本	2本
10	1本	1本	10	1本	1本	10	2本	2本
11	2本	2本	11	1本	1本	11	2本	2本
12	2本	2本	12	1本	1本	12	2本	2本
13	2本	2本	13	1本	1本	13	2本	2本
14	3本	2本	14	1本	1本	14	2本	2本
15	2本	2本	15	1本	1本	15	2本	2本
16	1本	2本	16	1本	1本	16	1本	1本
17	2本	3本	17	0本	0本	17	3本	2本
18	1本	1本	18	0本	0本	18	2本	2本
19	1本	1本	19	0本	0本	19	1本	1本
20	1本	1本	20	0本	0本	20	1本	1本
21	1本	1本	21	0本	0本	21	1本	1本
平均	1.82	1.65	平均	0.41	0.41	平均	1.94	1.59

〔雄踏町宇布見（雄踏総合公園）〕

〔篠原町〕

〔増楽町（可美公園）〕



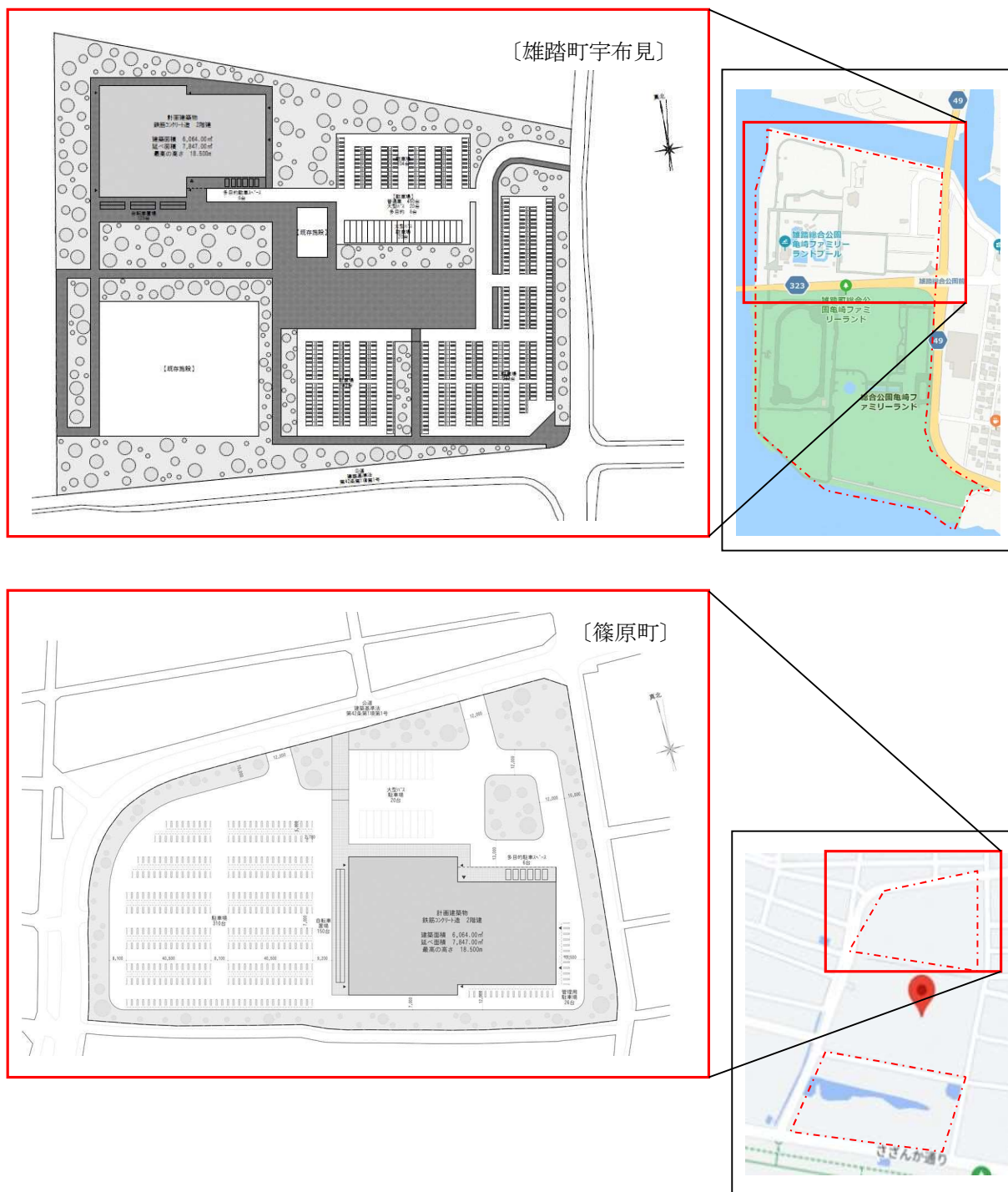
図 5-2 候補地の最寄りバス停留所の位置

出典：遠鉄バス時刻表

## 5.2 建設候補地の検討

### (1) 候補地別の施設配置

各候補地ともに今後の用地確保や諸条件を整理したことを想定し、仮に最大規模のモデルプランB案を配置した場合の施設配置案を示す以下の通りであり、雄踏町宇布見及び増楽の両候補地では既存施設用地の一部、篠原町の候補地では総合水泳場北側に各々、物理的には新武道館の整備が可能となる。



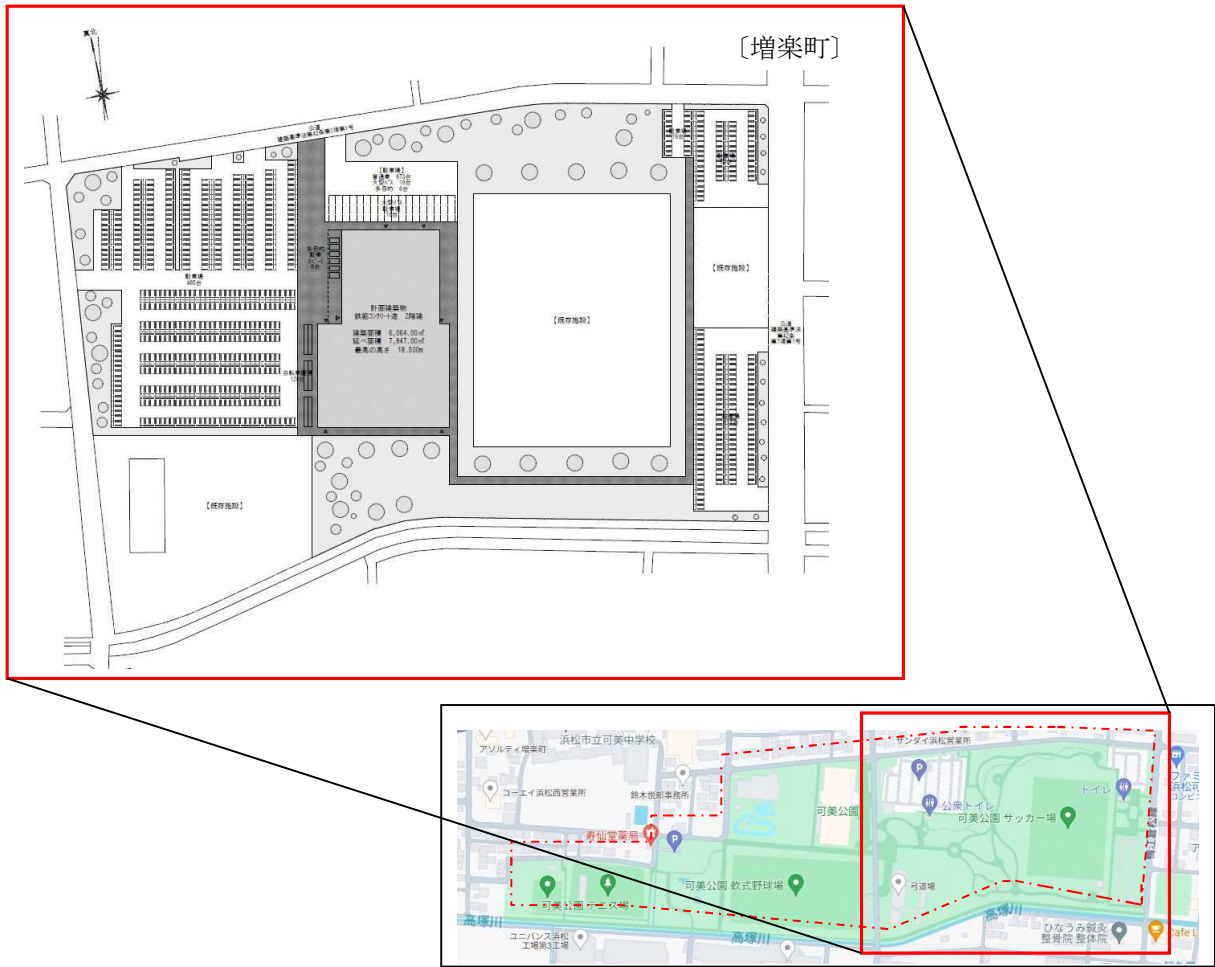


図 5-3 候補地別のモデルプラン配置・例

(2) 候補地検討 (まとめ)

新武道館の整備候補地は、いずれも想定される施設規模(約 63,400 m<sup>2</sup>)を確保可能であるが、現時点では、区域内の既存施設の廃止または区域指定の見直しを必要とする。  
各候補地の現況を比較すると良好、改善・調整すべき点がみられる(下表参照)。

表 5-6 候補地検討 (まとめ)

検討項目		雄踏町宇布見 (雄踏総合公園)	篠原町 (遠州灘海浜公園)	増楽町 (可美公園)
① 建築面積の確保		・都市公園区域内の既存施設の廃止及び用途変更等による用地確保が必要	・建蔽率の見直し、または公園区域の調整等による用地確保が必要	・都市公園区域内の既存施設の廃止及び用途変更等による用地確保が必要
② 立地環境の安全性		・ハザード指定なし	・津波浸水の箇所あり(0.3~1.0m未満)	・天竜川洪水浸水箇所あり(2.0~3.0m未満)
③ 公共交通機関の利便性	最寄り駅	・JR 舞阪駅から車*で約6分の移動時間	・JR 高塚駅から車*で約5分の移動時間	・JR 高塚駅から車*で約3分の移動時間
	最寄りバス停留所のバス運行	・近傍に1箇所のバス停留所あり ・時間当たり平均運行本数は平日 0.58、休日 0.60	・近傍に1箇所のバス停留所あり ・時間当たり平均運行本数は平日、休日とも同一ダイヤで0.48	・近傍に1箇所のバス停留所あり ・時間当たり平均運行本数は平日 0.67、休日 0.53

\* 自動車移動距離(郊外): 約 420mと想定

### (3) 候補地における新武道館整備の課題

新武道館の整備候補地で整備を進める場合、以下の点が課題となる。

#### ①事業用地の詳細な検討

各候補地の施設配置に当たり、既存施設の利用状況等を考慮した用地選定とともに、選定された用地の地質等の調査が必要となる。

#### ②施設の整備、維持管理・運営に関する民間活力導入の精査

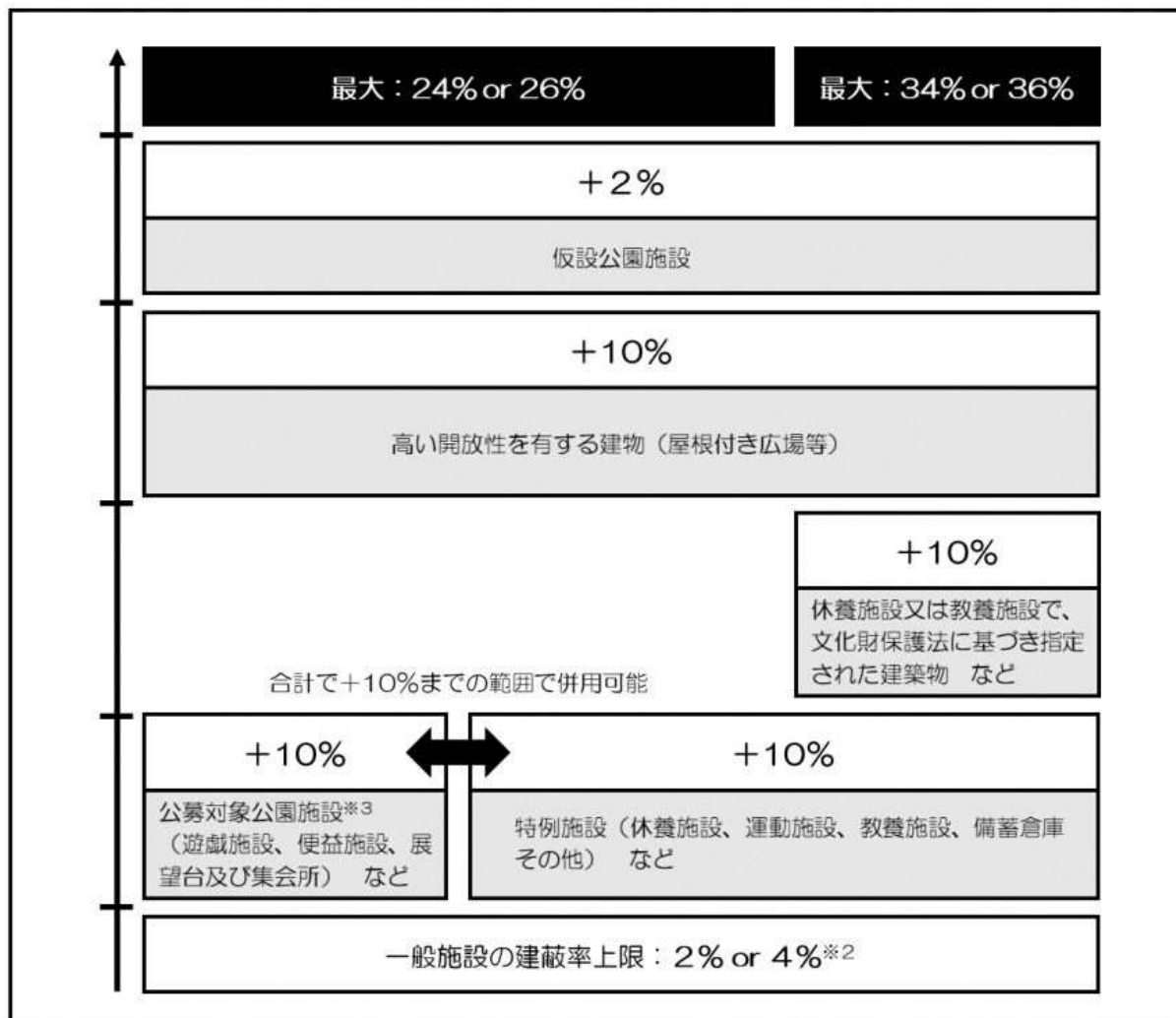
施設の整備、維持管理・運営において、関係機関の理解を得つつ、民間活力導入に向けた取り組みを進め、行政の財政的な負担の軽減とともに、ハード・ソフト両面における、よりよい施設づくりに向けた具体的な検討が必要となる。

#### ③施設の利用促進に向けた取り組みの拡充

大会規模の拡充や市内外からの利用促進など、施設が目指す将来像の実現に向けた様々な企画を進めるための体制強化が必要となる。

## 参考 建蔽率緩和の事例

- ・大阪市では、都市公園法令及び大阪市公園条例により、下図に示すとおり建蔽率の上限が定めている。



※1 「都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン（国土交通省）」を参考に作成。

URL：<http://www.mlit.go.jp/common/001197545.pdf>

※2 次に該当する公園の建蔽率の上限は4%となります（・敷地面積が0.25haを超える街区公園・近隣公園・地区公園及び緑道・水辺の賑わいの創出又は集客及び観光に寄与する都市公園（中之島公園、桜之宮公園、大阪城公園及び天王寺公園。令和元年4月からは鶴見緑地も追加）

※3 公募設置管理制度（Park-PFI 制度）において、公園利用者の利便性向上に資する公園施設として設置するものを指します。

図 5-4 建蔽率緩和の事例

出典：大阪市HP

表 5-7 他都市における建蔽率の上乗せ事例

自治体	適用条件・適用公園	緩和要因の施設	特例により緩和された建ぺい率限度		計	緩和理由
			参酌基準：2%	参酌基準： 休養施設、運動施設、 教養施設等 +10%		
西宮市	西宮中央運動公園に限る	体育館、陸上競技場、民間提案施設等	5%	15%	20%	西宮中央運動公園の再整備事業は、体育館や陸上競技場などを集約した、本市のスポーツ推進の中核をなす総合運動施設として再整備を行うものである。本計画において想定する体育館や陸上競技場のスタンドなどの施設規模に加え、別途、公園の賑わいを創出するために民間提案施設の導入も予定しており、現行の西宮市都市公園条例に定められている建蔽率を緩和しなければならないため、関係する条項の改正を行う。
横浜市	横浜公園に限る	野球場	7%	31%	38%	2020年東京五輪で野球・ソフトボールの主会場となる横浜スタジアム（横浜市中区）で約6千席を増設する改修計画に関し、横浜市が横浜公園限定で建ぺい率の上限を引き上げて対応する。
長野市	長野運動公園及び南長野運動公園に限る	各種スポーツ施設		20%	20%	
岐阜県	岐阜メモリアルセンターに限る	運動施設	3%	15%	18%	
沖縄市	コザ運動公園に限る	多目的アリーナ等		15%	15%	
名古屋市	名古屋市久屋大通公園に限る			14%	14%	久屋大通公園内には、愛知芸術文化センターやオアシス21、フリエ等が立地しており、都市公園条例に基づく建ぺい率の規定の中では、これ以上、まとまった規模の建物を建築することが不可能となっている。このため、久屋大通公園の建ぺい率を14%に緩和するとしている。
大阪市	中之島公園、桜之宮公園、大阪城公園、天王寺公園、鶴見緑地		4%		4%	水辺のにぎわいの創出又は集客及び観光に寄与する都市公園として市規則で定める。
千葉市	稲毛海浜公園（総合公園）	レストラン等	5%		5%	レストラン等の公園活性化施設の整備運営を行うPFI事業の促進のため。

出典：川崎市HP

## 第6章 整備手法及び整備スケジュールの設定

### 6.1 民間活力の活用を含む事業スキームの検討

新武道館の事業手法においては、以下の方法が考えられる。

表 6-1 事業手法の比較

事業手法	メリット	デメリット
従来方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>発注者の意向を反映し易く、設計の自由度が高い</li> <li>発注時に競争原理が働く</li> <li>管理運営を指定管理者制度とした場合、更新時期により好ましい連携体制をその都度構築できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分離発注のため、施工者間の協議、調整が必要（工事費や施工期間により入札不調の可能性有）</li> <li>民間事業者の創意工夫を反映させ難く、コスト削減余地は比較的少ない</li> </ul>
DB方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計、工事の一体発注で発注業務や期間が縮減可能</li> <li>設計段階で施工会社の技術導入が可能、設計・施工面でコストダウンが期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計者や発注者のチェックが働き難く、施工者側に偏った設計になりがち</li> <li>行政による実施設計後の変更対応が難しい</li> </ul>
DBO方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備段階から運営事業者のノウハウを活用可能</li> <li>長期の事業期間で管理、運営の計画的かつ魅力ある事業展開が期待できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期契約の管理運営体制の柔軟性、リスクを伴う</li> <li>整備運営等に公共の意向反映が難しい、公共側のモニタリングがより重要</li> </ul>
PFI方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>財政負担の平準化</li> <li>施設整備段階から運営事業者のノウハウを活用できる</li> <li>長期の事業期間のため、管理運営で計画的かつ魅力ある事業展開が期待できる</li> <li>金融機関により事業期間のモニタリングが行われる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備運営等に公共の意向を反映するために協議が必要</li> <li>長期契約のため、管理運営体制の柔軟性に欠け、リスクを伴う場合有</li> <li>事業スケジュールの制約により、入札不調の場合も可能性有</li> </ul>
リース	<ul style="list-style-type: none"> <li>リース会社の一括購入の為、行政（ユーザー）は初期費用を大幅に抑えられる</li> <li>契約対象物について耐用年数に合わせたリース期間設定により最新の設備機器等が使用可能・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中途解約ができず、中途解約の場合は残リース代相当の違約金支払いが生じる</li> <li>リース料金の支払総額が割高（購入価格、金利、固定資産税、損害保険料等含）</li> <li>対象物の瑕疵に対し、裁判等で費用、時間がかかる</li> </ul>

## 6.2 既施設の利用状況を考慮した整備スケジュール

既施設の利用状況（指定管理期間）を考慮した整備スケジュールを設定すると、以下のようになる。

事業手法の選定については、今後さらに詳細な検討が必要となる。

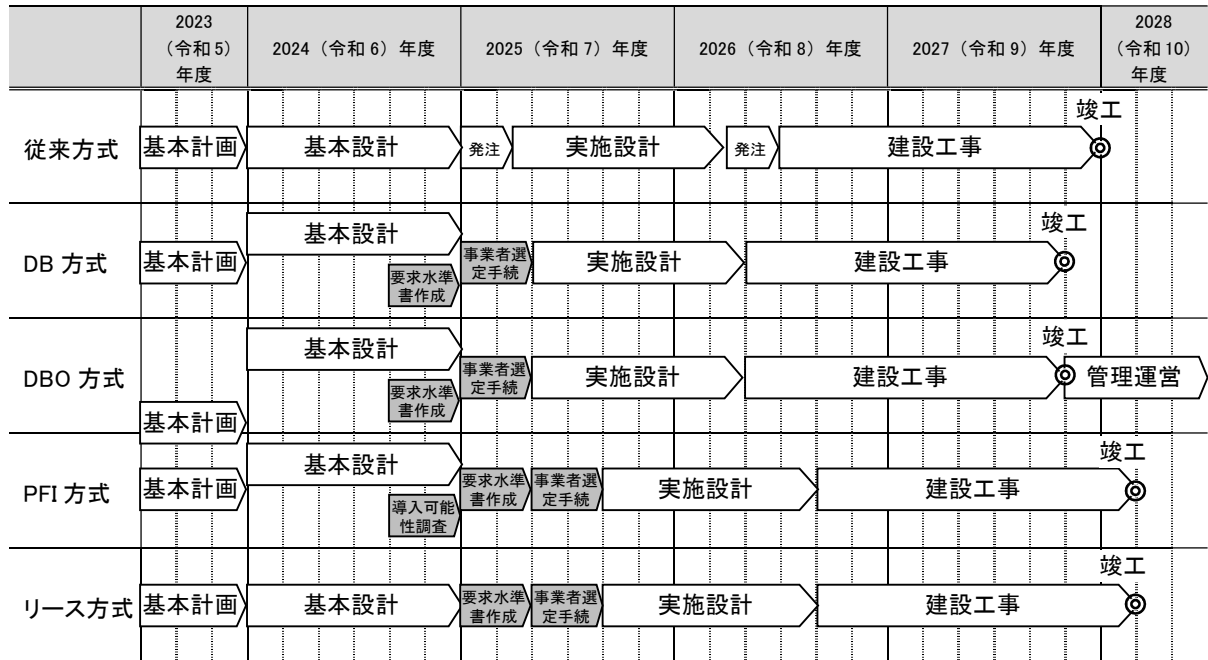


図 6-1 想定される事業スケジュール

出典：内閣府資料より編集

## 第7章 基本計画書の作成

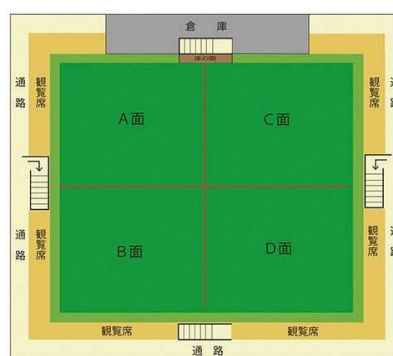
新武道館整備基本計画における基本計画書を取りまとめると、以下のとおりである。

### 【施設現況】

- ・1977年4月竣工（築46年）、SRC造・2F、延べ床面積 2,056.82 m<sup>2</sup>、建築面積 1,628.12 m<sup>2</sup>
- ・柔道、剣道場は共用、計4面（必要に応じて畳敷）
- ・駐車台数 135台



〔1階平面図〕



〔2階平面図〕

図 7-1 現武道館の平面

### 【参考事例】

- ・政令指定都市（20市）のうち、独立した武道館を設置している5都市の施設概要は以下の通りである。

表 7-1 参考事例

施設名	延べ床面積	面数:柔・剣道/席数	備考
仙台市武道館	16,405 m <sup>2</sup>	柔道、剣道各2面/312席	弓道場有
大宮武道館	6,462 m <sup>2</sup>	主道場 1,122 m <sup>2</sup> +柔道、剣道場各2面/主道場924席	弓道場有
千葉市武道館	8,194 m <sup>2</sup>	第一道場 1,353、第二道場 623 m <sup>2</sup> /席数 無	—
京都武道センター +旧武徳殿	4,032 m <sup>2</sup> 1,051 m <sup>2</sup>	主競技場 1,344 m <sup>2</sup> 、補助 " 310 m <sup>2</sup> (180畳) /880席 旧武徳殿 354 m <sup>2</sup> (約200畳)	弓道場有
若松武道場	不詳	柔道場 444.5 m <sup>2</sup> (263.5畳) 剣道場 444.5 m <sup>2</sup> /300席	弓道場有

### 【施設利用状況】

- ・年間利用者数 45,005人（2022年）：ほぼ、コロナ禍前水準（2019年：47,918人）に戻っている。
- ・日最多利用者数 747人（2022年1月22日（日））

**【競技団体ヒアリング結果（要旨）】**

- ・剣道連盟：2,000名規模の大会会場を希望（主会場12面、副会場4面（26.5m四方／面））
- ・柔道協会西部支部：現施設の規模（畳敷・4面）で対応可
- ・ダンススポーツ連盟：競技会等で最大1,500㎡程度希望
- ・卓球協会：大会運営で2,014㎡（53×38m）規模を希望

**【新武道館整備の基本的な考え方】**

- ・武道館として一定規模の競技大会が開催できる。
- ・武道競技を主としつつ、パラスポーツや講習・研修会など、多目的利用（インクルーシブ）にも対応できる。

**【新武道館の想定規模】**

- ・新武道館の建築及び駐車場の想定される合計敷地規模は約63,400㎡である。
- ・新武道館の規模：延べ床面積約7,600㎡、建築面積約6,000㎡、敷地規模約50,000㎡
- ・新武道館の駐車場規模：約13,400㎡

**【新武道館の候補地の検討】**

- ・新武道館の整備候補地は、いずれも想定される施設規模（約63,400㎡）を確保可能であるが、現時点において区域内の既存施設の廃止または区域指定の見直しを必要とする。
- ・各候補地の現況を比較すると下表の通りであり、各々の候補地で良好、改善・調整すべき点がみられる。

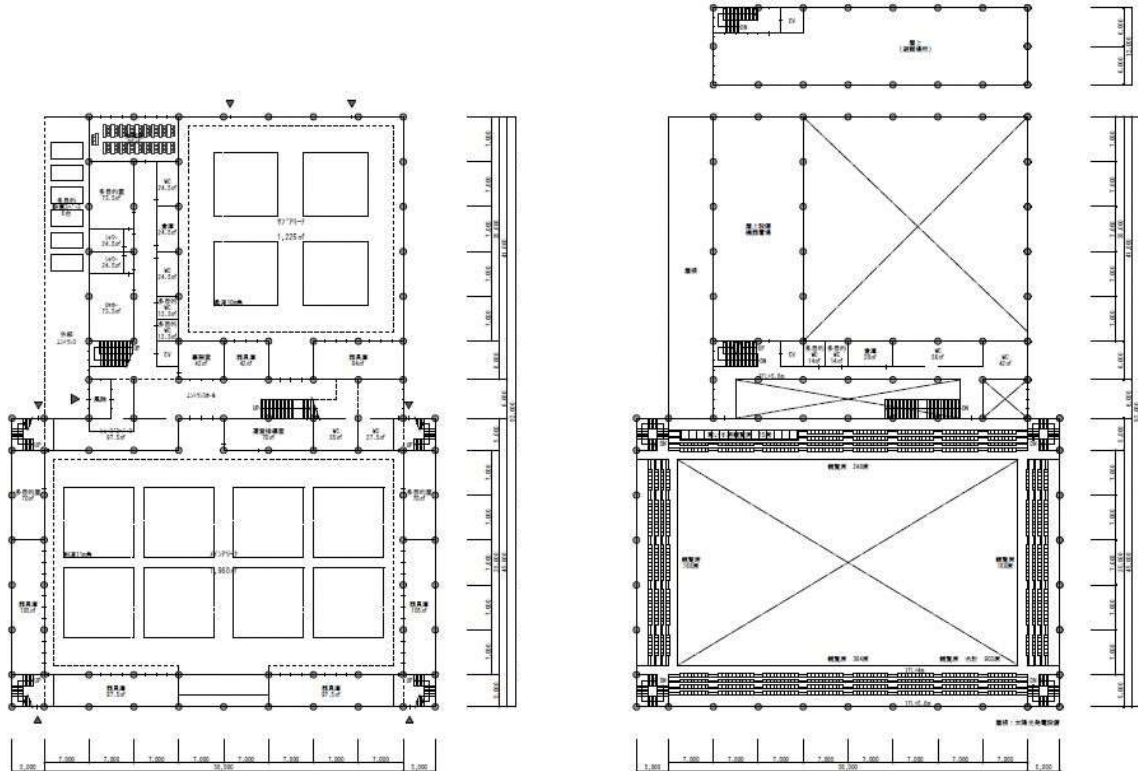
表 7-2 候補地の現状比較

検討項目		雄踏町宇布見 （雄踏総合公園）	篠原町 （遠州灘海浜公園）	増楽町 （可美公園）
① 建築面積の確保		・既存施設の廃止等で新武道館の整備可	・建蔽率の緩和または区域東側の施設整備との調整等で新武道館の整備可	・既存施設の廃止等で新武道館の整備可
② 立地環境の安全性		・ハザード指定なし	・津波浸水の箇所あり	・天竜川洪水浸水箇所あり
③ 公共交通機関の利便性	最寄り駅	・JR 舞阪駅から車*で約6分の移動時間	・JR 高塚駅から車*で約5分の移動時間	・JR 高塚駅から車*で約3分の移動時間
	最寄りバス停留所のバス運行	・近傍に1箇所のバス停留所あり ・時間当たり平均運行本数は平日 0.58、休日 0.60	・近傍に1箇所のバス停留所あり ・時間当たり平均運行本数は平日、休日とも同一ダイヤで0.48	・近傍に1箇所のバス停留所あり ・時間当たり平均運行本数は平日 0.67、休日 0.53

\* 自動車移動距離（郊外）：約420mと想定

【新武道館のモデルプラン】

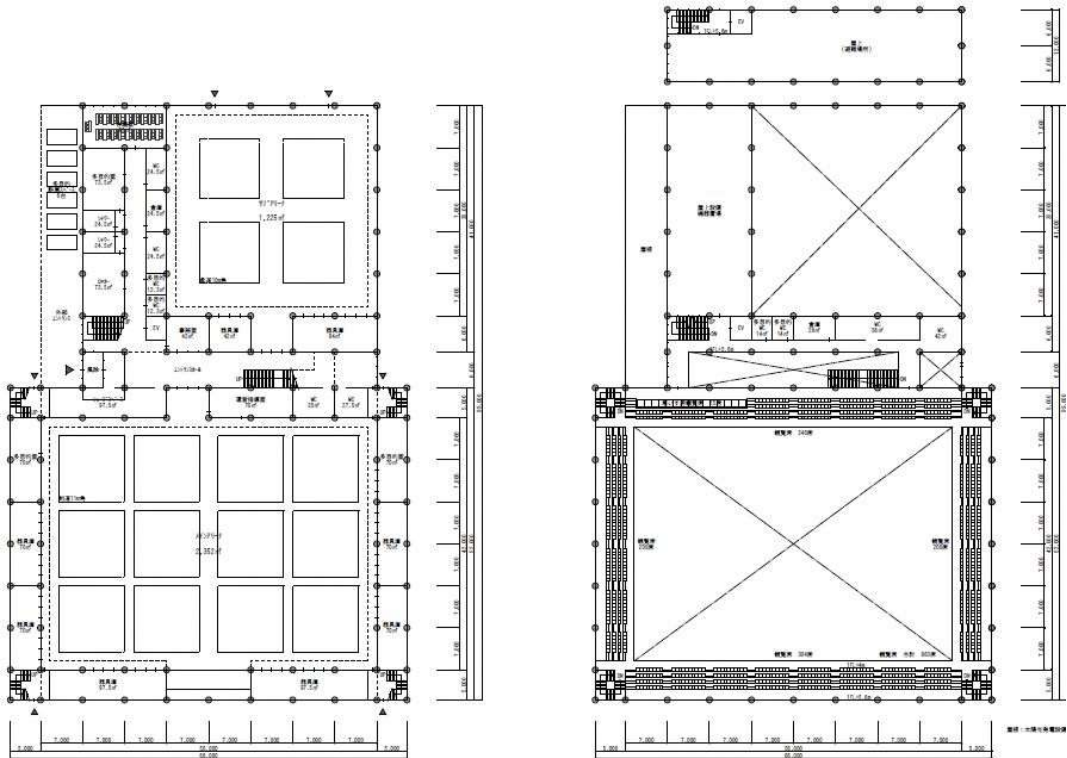
- ・ A案（メインアリーナ：8面）：延べ床面積約 7,294 m<sup>2</sup>、建築面積約 5,602 m<sup>2</sup>



〔1階平面図〕

〔2階平面図〕

- ・ B案（メインアリーナ12面）：延べ床面積約 7,847 m<sup>2</sup>、建築面積約 6,064 m<sup>2</sup>



〔1階平面図〕

〔2階平面図〕

図 7-2 モデルプラン

【新武道館（モデルプラン）の概算事業費（税込）】

- ・ A案は約 55 億円、B案は約 58 億円となる。A案よりも建築面積の大きいB案は、A案に対して約 7%割高

表 7-3 モデルプランの概算事業費

	A 案	B 案	
敷地面積	33,000 m <sup>2</sup>	33,000 m <sup>2</sup>	地図データ上の概数
建築面積	5,602 m <sup>2</sup>	6,064 m <sup>2</sup>	
延床面積	7,294.00 m <sup>2</sup>	7,847.00 m <sup>2</sup>	
工事費（百万円）		※税別	
建築工事	3,370	3,625	税抜金額
電気設備工事	503	541	
機械設備工事	839	902	
外構工事	281	281	
合計	<b>4,992</b>	<b>5,350</b>	
消費税（10%）	499	535	
合計（税込み）	5,491	5,885	
比率	1.00	1.07	

【新武道館の整備手法】

- ・ 施設がスポーツ利用が中心であり、想定される仕様で運営・維持管理が可能のため、民間活力導入のメリットは低い一方、設計・施工一括発注で施工コスト削減可能な設計が期待できるため、DB（Design Build）方式と施設整備後の指定管理者制度の導入が望ましい。

【新武道館の整備事業スケジュール】

- ・ DB方式による整備が最も整備期間が短いと見込まれる。

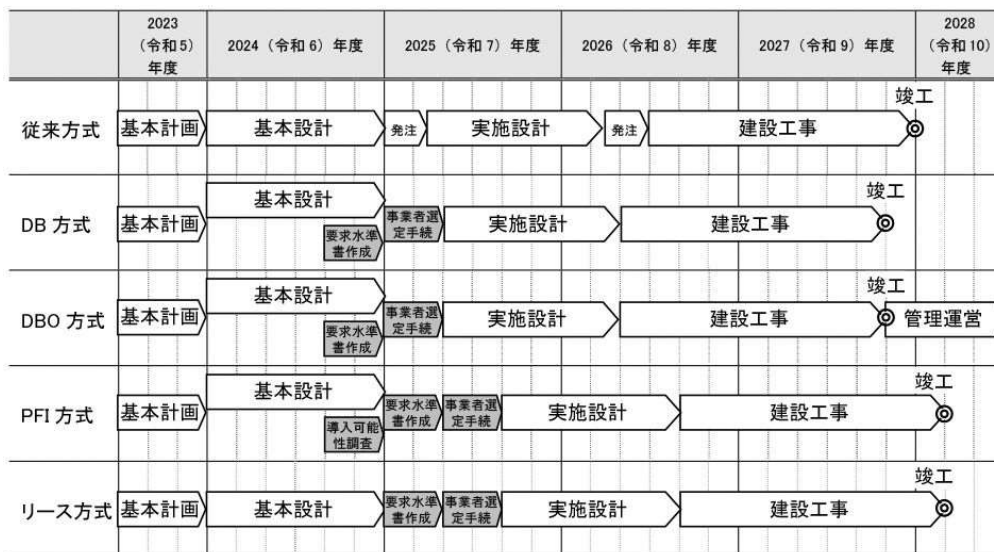


図 7-3 整備事業スケジュール